

\* إِلَيْهِ يُرَدُّ عِلْمُ السَّاعَةِ وَمَا تَخْرُجُ مِنْ ثَمَرَاتٍ مِنْ أَكْمَامِهَا  
 وَمَا تَحْمِلُ مِنْ أُنْثَىٰ وَلَا تَضَعُ إِلَّا بِعِلْمِهِ وَيَوْمَ يُنَادِيهِمْ أَيْنَ  
 شُرَكَاءِ ۖ قَالُوا أَدْنَاكَ مَا مَنَّا مِنْ شَهِيدٍ ﴿٤٧﴾ وَضَلَّ عَنْهُمْ  
 مَا كَانُوا يَدْعُونَ مِنْ قَبْلُ وَظَنُوا مَا لَهُمْ مِنْ مَّحِيصٍ ﴿٤٨﴾  
 لَا يَسْمَعُ الْإِنْسَانُ مِنْ دُعَاءِ الْخَيْرِ وَإِنْ مَسَّهُ الشَّرُّ فَيَعْوَسُ  
 فَنَوْطُ ﴿٤٩﴾ وَلَئِنْ أَذَقْنَاهُ رَحْمَةً مِمَّا مِنْ بَعْدِ ضَرَاءٍ مَسَّتَهُ  
 لَيَقُولُنَّ هَذَا لِي وَمَا أَطْنُ السَّاعَةَ قَائِمَةً وَلَئِنْ رُجِعْتُ إِلَىٰ  
 رَبِّي إِنَّ لِي عِنْدَهُ لِلْحُسْنَىٰ فَلَنُنَبِّئَنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا بِمَا عَمِلُوا  
 وَلَنَدْفِنَهُمْ مِنْ عَذَابٍ غَلِيظٍ ﴿٥٠﴾ وَإِذَا أُنْعَمْنَا عَلَى الْإِنْسَانِ  
 أَعْرَضَ وَنَأَىٰ بِجَانِبِهِ وَإِذَا مَسَّهُ الشَّرُّ فَذُو دُعَاءٍ عَرِيضٍ  
 ﴿٥١﴾ قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ كَانَ مِنْ عِنْدِ اللَّهِ ثُمَّ كَفَرْتُمْ بِهِ  
 مَنْ أَضَلُّ مِمَّنْ هُوَ فِي شِقَاقِ بَعِيدٍ ﴿٥٢﴾ سَأُرِيهِمْ آيَاتِنَا  
 فِي الْأَفَاقِ وَفِي أَنْفُسِهِمْ حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُ الْحَقُّ  
 أَوَلَمْ يَكْفِ بِرَبِّكَ أَنَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ ﴿٥٣﴾ أَلَا إِنَّهُمْ  
 فِي مِرْيَةٍ مِنْ لِقَاءِ رَبِّهِمْ أَلَا إِنَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ مُّحِيطٌ ﴿٥٤﴾

④⑦(審判の)時の知識は、アッラーだけに帰される。**かれ**だけがそれがいつ起こるのかを知り、**かれ**以外の誰もそれを知らない。また**かれ**が知ることなくして、果実がそれを守る覆いから現れたり、女性が子供を妊娠したり出産したりすることはない。その日、アッラーは、**かれ**と共に偶像を並べて崇拜していた多神教徒たちを呼び、そのことを咎めて言う。「あなた方がわが共同者と主張していた、共同者たちはどこか?」多神教徒たちは言う。「今、あなたに共同者がいるなどと証言する者は、誰もいません。」

④⑧かれらが祈っていた偶像は消え失せてしまい、かれらはアッラーの罰から逃げ場がないことを確信する。

④⑨人間は健康、財産、子供などの恩恵を、飽くことなく求める。そして貧困や病気などに襲われると、アッラーの慈悲からひどく絶望する。

⑤①だが**われら**が試練や病気の後、かれに健康や豊かさや安泰を授けてやれば、こう言うのだ。「これはわたしに相応しいものであり、わたしのためのもの。審判の日が来るなどとは思わない。もしそれが来ることになっていたとしても、わたしにはアッラーのもとに豊かさや財産がある。わたしがそれに相応しいために、**かれ**は現世において恩恵を授けて下さったが、来世でもやはりわたしにそうして下さいのだ。」**われら**はアッラーを否定した者たちに対し、必ず**かれら**が行った不信仰と罪について告げ聞かせ、この上なく厳しい罰を**かれら**に味わわせてやる。

⑤②**われら**が人間に健康や安泰などの恩恵を授ければ、かれはアッラーの想起や服従をないがしろにし、高慢にも背を向ける。だが病気や貧困などに襲われれば、アッラーに救ってもらうため訴え、ひたすら**かれ**に祈りすぎる。かれは恩恵を授ければ感謝せず、試練においては忍耐しないのである。

⑤③使徒よ、かれらに嘘呼ばわりする多神教徒たちに言え。「このクルアーンがアッラーからのものであるとして、あなた方がそれを否定し嘘呼ばわりするのであれば、あなた方の状態はいかなるものになるだろうか?その根拠と力が明白なのにも関わらず、真理に盾突く者よりもひどく迷っている者があろうか?」

⑤④**われら**はクライシュ族の不信仰者たちに、アッラーがムスリムたちのために与える地上の方々において、**われら**の印を見せてやろう。また、かれら自身の内にも、マッカ開城という出来事によって**われら**の印を見せてやろう。それはこのクルアーンが疑いのない真理であるということがかれらに明らかになり、疑念を晴らすため。かれら多神教徒たちには、クルアーンがアッラーからのものであるという**かれ**の証言だけで、クルアーンが真理であるということを知るに十分ではないのか?そしてアッラーの証言よりも偉大なものがあるか?

⑤⑤多神教徒たちは、審判の日の主との会見に疑念を抱いている。それはかれらが復活を否定しており、来世を信じていないためであり、だからかれらは善行によって来世のために準備しない。アッラーは全ての物事をその知識と力によって包囲している。

### 本諸節の功德:

- 審判の日の到来に関する知識は、アッラーだけに属する。
- アッラーの恩恵や試練に対する不信仰者たちの態度には一貫性がなく、混乱している。
- アッラーは全ての物事をその知識と力によって包囲している。

بَابُ ٤٢

سُورَةُ الشُّورَى

بَابُ ٤٢

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

١ ۞ حَمَّ ۞ عَسَقَ ۞ كَذَلِكَ يُوحِي إِلَيْكَ وَإِلَى الَّذِينَ مِنْ قَبْلِكَ  
 اللَّهُ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ۞ ٢ ۞ لَهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ  
 وَهُوَ الْعَلِيُّ الْعَظِيمُ ۞ ٣ ۞ تَكَادُ السَّمَاوَاتُ يَتَفَطَّرْنَ مِنْ فَوْقِهِنَّ  
 وَالْمَلَائِكَةُ يُسَبِّحُونَ بِحَمْدِ رَبِّهِمْ وَيَسْتَغْفِرُونَ لِمَنْ فِي  
 الْأَرْضِ أَلَا إِنَّ اللَّهَ هُوَ الْغَفُورُ الرَّحِيمُ ۞ ٤ ۞ وَالَّذِينَ اتَّخَذُوا  
 مِنْ دُونِهِ أَوْلِيَاءَ اللَّهُ حَفِيفٌ عَلَيْهِمْ وَمَأْنَتْ عَلَيْهِمْ بِوَكِيلٍ  
 ۞ ٥ ۞ وَكَذَلِكَ أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ قُرْآنًا عَرَبِيًّا لِتُنذِرَ أُمَّ الْقُرَى وَمَنْ  
 حَوْلَهَا وَتُنذِرَ يَوْمَ الْجَمْعِ لَا رَيْبَ فِيهِ فَرِيقٌ فِي الْجَنَّةِ وَفَرِيقٌ فِي  
 السَّعِيرِ ۞ ٦ ۞ وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ لَجَعَلَهُمْ أُمَّةً وَاحِدَةً وَلَكِنْ يَدْخُلُ مِنَ  
 يَسَاءٍ فِي رَحْمَتِهِ وَالظَّالِمُونَ مَا لَهُمْ مِنْ وَلِيٍّ وَلَا نَصِيرٍ ۞ ٧ ۞ أَمْ  
 اتَّخَذُوا مِنْ دُونِهِ أَوْلِيَاءَ فَإِنَّهُ هُوَ الْوَلِيُّ وَهُوَ يُحْيِي الْمَوْتَى وَهُوَ  
 عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ۞ ٨ ۞ وَمَا اخْتَلَفْتُمْ فِيهِ مِنْ شَيْءٍ فَحُكْمُهُ  
 إِلَى اللَّهِ ذَلِكُمُ اللَّهُ رَبِّي عَلَيْهِ تَوَكَّلْتُ وَإِلَيْهِ أُنِيبُ ۞ ٩ ۞

## 本章の趣旨:

アッラーの立法の完璧さと、それに従う義務と違反することへの警告

## 説明:

①-③ 「ハー・ミーム」「アイン・スイーン・カーフ」については、雌牛章冒頭に同様のアーヤの説明あり。

④ ムハンマドよ、この啓示と同様のものを、**かれ**はあなたと、あなた以前のアッラーの預言者たちに啓示する。アッラーは敵に対する復讐において偉大なお方、その采配と創造において英知にあふれたお方。

⑤ 天と地にあるものは創造、王権、采配において、アッラーにのみ属する。**かれ**はその本質、位、力において至高のお方、その本質からして偉大なお方である。

⑥ **かれ**の偉大さのため、広大で偉大な天空までもが、大地に近い下方から割け散らばり。天使たちは主に服従し、讚美しつつ、その崇高さと偉大さを称え、地上にいる者にアッラーからのお赦しを請う。アッラーは悔悟する者の罪をお赦しになり、慈しまれるお方。

⑦ アッラーを差し置いて偶像を保護者とし、アッラーをよそにそれらを寵愛し崇拜する者たち。アッラーはかれらを監視され、その行いを記録してそれに報いる。そして使徒よ、あなたはかれらの行いの記録を請け負う者ではなく、かれらの行いについて尋ねられることもない。あなたは単なる伝達者なのだ。

⑧ 使徒よ、**われら**はあなた以前の預言者たちに啓示したのと同様、あなたにアラビア語のクルアーンを啓示した。それはあなたが、マッカとその周辺のアラブ人の町々を始めとした全人類に警告し、審判の日について人々

を恐れさせるため。その日アッラーは清算と報いのため、先代の者たちも後代の者たちも、一つの台地に召集する。その日は必ず起こるのだが、その時人々は二つの集団に分けられる。一方は天国の民である信仰者たち、他方は地獄の民である不信仰者たちである。

⑨ アッラーがイスラームのもとにかれらを一つの民とすることを望んだのなら、そのようにし、全員を天国に入れただろう。しかしアッラーの英知により、**かれ**がお望みの者だけがイスラームに入り、天国に入るのだ。不信仰と罪で自分自身に不正を犯す者には保護者もなく、アッラーの罰から守ってくれる援助者もない。

⑩ かれら多神教徒たちはアッラーをよそに、かれらが寵愛する保護者を置いた。アッラーこそは真の保護者。その他のものは役立つことも害することもない。**かれ**こそは死者に生を与え、清算と報いのために復活させるお方。**かれ**に不可能なことなどない。

⑪ 人々よ、あなたが宗教の基本的な部分であれ派生的な部分であれ、意見を異にしているものの決定は、アッラーに帰されるのだ。つまり、**かれ**の啓典か、その使徒のスナナ(慣行)に帰されるのである。このような特性のお方こそわが主。わたしは自分のあらゆる物事において**かれ**に委任したのであり、**かれ**にこそ悔悟する。

## 本諸節の功德:

- アッラーの偉大さは全てに現れている。
- 天使たちは信仰ある者たちのために祈願する。
- クルアーンとスナナ(預言者の慣行)は信仰者のあらゆる物事における典拠だが、特に意見の相違があった時にはそれが顕著である。
- 警告がマッカとその周辺の民に限定して描写されているのは、「われらはあなたを全人類に遣わしたのである」とクルアーンにある通り、使徒が全人類へ遣わされたにも関わらず、かれらがその使徒性を否定したことへの反駁のためである。

فَأَطْرُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ جَعَلْ لَكُمْ مِنْ أَنْفُسِكُمْ أَزْوَاجًا  
 وَمِنَ الْأَنْعَامِ أَزْوَاجًا يَذُرُّكُمْ فِيهِ لَيْسَ كَمِثْلِهِ شَيْءٌ وَهُوَ  
 السَّمِيعُ الْبَصِيرُ ﴿١١﴾ لَهُ مَقَالِيدُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ يَبْسُطُ  
 الرِّزْقَ لِمَنْ يَشَاءُ وَيَقْدِرُ إِنَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿١٢﴾ \* شَرَعَ  
 لَكُمْ مِنَ الدِّينِ مَا وَصَّى بِهِ نُوحًا وَالَّذِي أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ وَمَا  
 وَصَّيْنَاهُ إِبْرَاهِيمَ وَمُوسَى وَعِيسَى أَنْ أَقِيمُوا الدِّينَ  
 وَلَا تَتَفَرَّقُوا فِيهِ كَبُرَ عَلَى الْمُشْرِكِينَ مَا تَدْعُوهُمْ إِلَيْهِ اللَّهُ  
 يَجْتَبِي إِلَيْهِ مَنْ يَشَاءُ وَيَهْدِي إِلَيْهِ مَنْ يُنِيبُ ﴿١٣﴾ وَمَا تَفَرَّقُوا  
 إِلَّا مِنْ بَعْدِ مَا جَاءَهُمُ الْعِلْمُ بَعْيَا بَيْنَهُمْ وَلَوْلَا كَلِمَةٌ سَبَقَتْ  
 مِنْ رَبِّكَ إِلَى أَجَلٍ مُسَمًّى لَفُضِيَ بَيْنَهُمْ وَإِنَّ الَّذِينَ أُورِثُوا  
 الْكُتُبَ مِنْ بَعْدِهِمْ لَفِي شَكٍّ مِنْهُ مُمْتَرِينَ ﴿١٤﴾ فَلِذَلِكَ  
 فَادْعُ وَاسْتَقِمْ كَمَا أُمِرْتَ وَلَا تَتَّبِعْ أَهْوَاءَهُمْ وَقُلْ  
 ءَأَمِنْتُ بِمَا أَنْزَلَ اللَّهُ مِنْ كِتَابٍ وَأُمِرْتُ لِأَعْدِلَ بَيْنَكُمُ  
 اللَّهُ رَبُّنَا وَرَبُّكُمْ لَنَا أَعْمَلْنَا وَلكُمْ أَعْمَلْتُمْ لِحَاجَةِ  
 بَيْنَنَا وَبَيْنَكُمُ اللَّهُ يَجْمَعُ بَيْنَنَا وَإِلَيْهِ الْمَصِيرُ ﴿١٥﴾

الْحَبَشَةُ

⑪ アッラーは先例のない形で天地を創造したお方。かれはあなたの方の内から配偶者をお創りになり、ラクダや牛や羊の内にも、あなたの方のために数を増やすべく雌雄を創ったお方。かれはあなたの方を結婚によって創造し、家畜の肉や乳によってあなたの方を生かせる。かれに似る被造物はない。かれは僕たちの言葉を聞き、その行いをご覧になるお方。誰もかれを免れることはなく、善には善、悪には悪で、かれらの行いに報いる。

⑫ かれにこそ天地の宝庫の鍵は属する。感謝するか知らずになるかを試すため、お望みになる僕の糧を豊かにし、忍耐するか、またはアッラーの定めで憤慨するかを試すため、お望みの者の糧を少なくする。かれは全てをご存知のお方であり、僕たちの福利となることを熟知される。

⑬ われらがヌーフにその伝達と実践を命じたのと同様の宗教が、あなた方に定められた。使徒よ、われらがあなたに啓示したものがそれである。また、われらがイブラーヒーム、ムーサー、イーサーにその伝達と実践を命じたのと同様のものが、あなた方に定められた。その要点はこうである。宗教を確立し、そこにおいて分裂してはならない。あなたが招いているアッラーの唯一性信仰の教えと、かれ以外の崇拝の放棄という教えは、多神教徒たちにとって重大である。アッラーはお望みの僕を選んで、かれの崇拝と服従へと導いて下さる。また、罪を悔悟し、主に立ち返る者のことをお導きになる。

⑭ 不信仰者たちと多神教徒たちが分裂したのは、ムハンマドがかれらに遣わされたという根拠が確定した後のことだった。そしてかれらの分裂は、侵犯と不正のためであった。アッラーの知識において定められた時であり、アッラーの裁きが行われる審判の日まで、かれらへの罰が遅らされるということが前もって定められていなければ、かれらの罰はアッラーに対する否定と使徒たちへの嘘呼ばわりのため、すぐに下されただろう。先人から律法を受け継いだユダヤ教徒たち、福音を受け継いだキリスト教徒たち、そしてその後のかれら多神教徒たちは、ムハンマドがもたらしたこのクルアーンに疑念を抱き、嘘呼ばわりしている。

⑮ この真っ直ぐな宗教へと招き、あなた自身アッラーのご命令に則って、その上に確固としてあれ。かれらの空虚な欲望に従ってはならない。かれらとの議論で、こう言うのだ。「わたしはアッラーと、アッラーがその使徒たちに下した諸啓典を信じた。アッラーはわたしに、あなたの方の間に公正に裁くよう命じた。わたしが崇拝するアッラーは、わたしとあなた方全員の主。わたしたちには善かれ悪しかれ、自分たちの行いがあり、あなた方にもまた善かれ悪しかれ、自分たちの行いがある。証拠が明らかになった後で、わたしたちとあなた方との間に議論はない。アッラーはわたしたち全員を召集し、審判の日の帰り所はかれのもとにこそある。そこでかれはわたしたち全員を相応しい形で報いるが、その時に正直者と嘘つき、真理の徒と虚妄の徒が明らかになるのである。」

### 本諸節の功德:

- 預言者たちの宗教は根本的に一つである。
- 言葉を一つにすることの重要性和、分裂の危険性。
- アッラーへと招くことにおける成功要素には、以下のようなものがある。教えの正しさ。そこにおける確立。欲望への追従の回避。公正さ。共通点への配慮。不毛な議論の回避。共通の目的地への喚起。

وَالَّذِينَ يُحَاجُّونَ فِي اللَّهِ مِنْ بَعْدِ مَا اسْتُجِيبَ لَهُ وَحَجَّتْهُمْ  
 دَاحِضَةٌ عِنْدَ رَبِّهِمْ وَعَلَيْهِمْ عَذَابٌ شَدِيدٌ  
 ١٦٦ اللَّهُ الَّذِي أَنْزَلَ الْكِتَابَ بِالْحَقِّ وَالْمِيزَانَ وَمَا يُدْرِيكَ  
 لَعَلَّ السَّاعَةَ قَرِيبٌ ١٦٧ يَسْتَعْجِلُ بِهَا الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ  
 بِهَا وَالَّذِينَ آمَنُوا مُشْفِقُونَ مِنْهَا وَيَعْلَمُونَ أَنَّهَا الْحَقُّ  
 ١٦٨ أَلَا إِنَّ الَّذِينَ يُمَارُونَ فِي السَّاعَةِ لَفِي ضَلَالٍ بَعِيدٍ  
 اللَّهُ لَطِيفٌ بِعِبَادِهِ يَرْزُقُ مَنْ يَشَاءُ وَهُوَ الْقَوِيُّ الْعَزِيزُ  
 ١٦٩ مَنْ كَانَ يُرِيدُ حَرْثَ الْآخِرَةِ نَزِدْ لَهُ فِي حَرْثِهِ وَمَنْ  
 كَانَ يُرِيدُ حَرْثَ الدُّنْيَا نُؤْتِهِ مِنْهَا وَمَا لَهُ فِي الْآخِرَةِ  
 مِنْ نَصِيبٍ ١٧٠ أَمْ لَهُمْ شُرَكَاءُ شَرَعُوا لَهُمْ مِنَ الدِّينِ  
 مَا لَمْ يَأْذَنْ بِهِ اللَّهُ وَلَوْلَا كَلِمَةُ الْفَصْلِ لَفُضِيَ بَيْنَهُمْ  
 وَإِنَّ الظَّالِمِينَ لَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ١٧١ تَرَى الظَّالِمِينَ  
 مُشْفِقِينَ مِمَّا كَسَبُوا وَهُوَ وَاقِعٌ بِهِمْ وَالَّذِينَ  
 آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فِي رَوْضَاتِ الْجَنَّاتِ لَهُمْ  
 مَا يَشَاءُونَ عِنْدَ رَبِّهِمْ ذَلِكَ هُوَ الْفَضْلُ الْكَبِيرُ ١٧٢

①⑥ 人々によって受け入れられた、ムハンマドに下されたこの宗教に関し、空虚な根拠をもって議論する者たちの根拠は、主のもとでも信仰者たちのもとでも無意味で無力であり、何の効果ももたらさない。

不信仰者たちの根拠の無さが説明された後、ムスリムが依拠する正しい根拠であるクルアーンについての描写がなされる。

①⑦ アッラーは疑う余地のない真理のクルアーンを下し、人々を公正に裁くための正義を下した。かれらが嘘呼ばわりしている審判の日は、もしかすると近いかもしれない。そして到来する全てのものは、近いのである。

①⑧ それ(審判の日)を信じない者たちは、それが早くやって来るよう要求する。なぜならかれらは、清算も褒美も罰も信じていないからである。だがアッラーを信じる者たちはそこでの行き先への恐怖からそれを恐れ、それが疑いの余地のない真理であることを確信する。審判の日について議論し、それが起こることを疑っている者たちは、真理から遠く離れた迷いの中にある。

①⑨ 知恵と優しさに従って、アッラーは僕たちに対してお優しく、お望みの者に糧を豊かに授ける。また一見そうは見えてなくても、お望みの者の糧を減少させる。かれは誰にも制圧されない強力なお方、敵に対して復讐する偉大なお方。

②⑩ 来世の褒美を望んで行った者には、われらがその褒美を倍増してやる。一つの善行は10倍から700倍、更にそれ以上にまで倍増する。だが現世だけを求める者には、そこでかれに決められた取り分を与えてはやるが、来世においては何の取り分もない。それはかれが、来世よりも現世を重んじたためである。

②⑪ かれら多神教徒たちには、アッラー以外に神々があるというのか?そしてその神々がかれらに、アッラーも許可してはいない多神や、合法なものの非合法化、非合法なものの合法化といった物事を宗教として定めたというのか?もしアッラーが、意見の異なる者たちの裁決に関して定められた時期を定めていなかったなら、かれらの間には裁決が下されていただろう。多神と罪によって自らに不正を働いている者たちには、審判の日、痛ましい罰が待ち受けている。

②⑫ 使徒よ、罰が降りかかって来るのが不可避の状態となった時、あなたは多神と罪によって自らに不正を働いた者たちが、自らが稼いだ罪のために罰を恐れるのを見るだろう。その時、悔悟とは無縁の恐怖が役に立つことはない。だがアッラーとその使徒たちを信じ、善行を行った者たちはそれとは逆の状態にある。かれらは樂園の安寧の中にあり、主のもとで永遠に終わることのない、望みままの諸々の享楽を得る。それこそはいかなるものも匹敵しない、偉大な徳なのだ。

### 本諸節の功德:

- 審判の日に対する信仰者の恐怖は、その日への準備を促進する。
- アッラーの優しさ。かれは僕にとってそれがよい時には糧を豊かにし、それがよい時には糧を減少させる。
- 来世よりも現世を重要視することの危険性。

ذَلِكَ الَّذِي يُبَشِّرُ اللَّهَ عِبَادَهُ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ  
 قُلْ لَا أَمْتَكُمْ عَلَيْهِ أَجْرًا إِلَّا الْمَوَدَّةَ فِي الْقُرْبَىٰ وَمَن يَقْتَرِفْ  
 حَسَنَةً تَزِدْ لَهُ فِيهَا حُسْنًا إِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ شَكُورٌ ﴿٣٦﴾ أَمْ يَقُولُونَ  
 أَفْتَرَىٰ عَلَى اللَّهِ كَذِبًا فَإِن يَشِئِ اللَّهُ يَخْتِمْ عَلَىٰ قَلْبِكَ وَيَمْحُ اللَّهُ  
 الْبَاطِلَ وَيُحْيِي الْحَقَّ بِكَلِمَاتِهِ إِنَّهُ وَعَلِيمٌ بِدَاتِ الصُّدُورِ ﴿٣٧﴾  
 وَهُوَ الَّذِي يَقْبَلُ التَّوْبَةَ عَنْ عِبَادِهِ وَيَعْفُو عَنِ السَّيِّئَاتِ  
 وَيَعْلَمَ مَا تَفْعَلُونَ ﴿٣٨﴾ وَيَسْتَجِيبُ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا  
 الصَّالِحَاتِ وَيَزِيدُهُم مِّن فَضْلِهِ ؕ وَالْكَافِرُونَ لَهُمْ عَذَابٌ  
 شَدِيدٌ ﴿٣٩﴾ وَلَوْ بَسَطَ اللَّهُ الرِّزْقَ لِعِبَادِهِ لَبَحَوْا فِي الْأَرْضِ  
 وَلَٰكِن يُنَزِّلُ بِقَدَرٍ مَّا يَشَاءُ إِنَّهُ بِعِبَادِهِ خَبِيرٌ بَصِيرٌ ﴿٤٠﴾ وَهُوَ  
 الَّذِي يُنَزِّلُ الْغَيْثَ مِنْ بَعْدِ مَا قَطَفُوا وَيُنَشِّرُ رَحْمَتَهُ ؕ وَهُوَ الْوَلِيُّ الْحَمِيدُ  
 ﴿٤١﴾ وَمَنْ ءَاءَيْتَهُ مَخْلُوقَاتِ السَّمٰوٰتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَثَّ فِيهِمَا مِنْ دَابَّةٍ  
 وَهُوَ عَلَىٰ جَمْعِهِمْ إِذْ يَشَاءُ قَدِيرٌ ﴿٤٢﴾ وَمَا أَصَابَكُمْ مِنْ مُّصِيبَةٍ فِيمَا  
 كَسَبْتُمْ أَيْدِيَكُمْ وَيَعْفُو عَنْ كَثِيرٍ ﴿٤٣﴾ وَمَا أَنْتُمْ بِمُعْجِزِينَ  
 فِي الْأَرْضِ وَمَا لَكُم مِّن دُونِ اللَّهِ مِنْ وَلِيٍّ وَلَا نَصِيرٍ ﴿٤٤﴾

الجزء  
الخامس  
العشرون

33)それが、アッラーがその使徒を介して、アッラーとその使徒たちを信じ、善行を行う者たちに伝える偉大な吉報。使徒よ、言え。「わたしは真理を伝えることであなた方から見返りなど求めない。求める一つのことは、わたしをあなた方との近親性から愛することであり、それはあなた方への利益となる。一つの善行を行えば、その褒美は倍増される。一つの善行は10倍になるのだ。アッラーは悔悟する僕の罪をお赦しになり、そのお顔を望んで行う善行に報いるお方。」

34)多神教徒たちは、ムハンマドがこのクルアーンを捏造して、主からのものと偽ったと主張した。アッラーはそれに反駁して言う。「もしあなたが嘘をつこうとも思ったのなら、われはあなたの心を塞ぎ、捏造された虚妄を消し去って真実を残しただろう。」だが事はそのようではなかったため、主から啓示を受けたという預言者の正しさは証明されたのだ。かれは僕たちの心の内をご存知になり、全てをお見通しのお方。

35)かれは不信仰や罪から悔悟する僕たちの悔悟を受け入れ、過去に犯した悪事を大目に見て下さるお方。あなた方がすることをご存知で、あなた方の行いはお見通しであり、それに報いるのである。

36)かれは、アッラーとその使徒たちを信じて善行を行う者たちの祈りに応え、求めてはいないことについても更なる恩恵を授けて下さる。だがアッラーとその使徒たちを否定する者たちには、審判の日に強烈な罰が待ち受けている。

37)もしアッラーが全ての僕の糧を豊かにしたならば、かれらは地上で不正にも横暴を働いただろう。しかしかれはその増減において、かれがお望みの量で糧を下す。かれは僕たちの状況を熟知し、よくご覧になるお方。英知によって与え、英知によって阻むのだ。

38)かれは僕たちが早魃に絶望した後、雨を広く降らせ、地上に植物を生育させるお方。かれは僕たちの諸事を司り、あらゆる状況において讃美されるお方。

39)天地の創造、そこに広がる感嘆を誘う被造物は、アッラーの力と唯一性を示す印である。かれはお望みの時に、それらを召集して応報するのだ。そのようなことは、それらを最初に創造することが不可能ではなかったのと同様、かれにとって不可能ではない。

40)人々よ、あなた方自身、あなた方の財産に降りかかった災難は、あなた方が稼いだ罪のためである。だがアッラーはその多くを大目に見て、お咎めにはならない。

41)主があなた方への罰をお望みになれば、あなた方がそこから逃れることは不可能。あなた方にはかれ以外、あなた方の諸事を請け負う保護者も、あなた方から罰を取り除いてくれる援助者もないのだ。

### 本諸節の功德:

- アッラーへと招く者は、人々から報償を望まない。
- 糧の増減は神的な英知によるものであり、多くの人には理解できないこともある。
- 罪は災難の原因の一つ。

وَمِنْ آيَاتِهِ الْجَوَارِ فِي الْبَحْرِ كَالْأَعْلَامِ ﴿٣٦﴾ إِنَّ يَسَاءَ مَا يَحْكُمُ الرِّيحُ  
 فَيَظْلَنَنَّ رَوَاكِدَ عَالِي ظَهْرِهِ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّكُلِّ صَبَّارٍ شَكُورٍ  
 ﴿٣٧﴾ أَوْ يُوقِعَهُنَّ بِمَا كَسَبُوْنَ وَيَعْفُ عَنْ كَثِيرٍ ﴿٣٨﴾ وَيَعْلَمَ الَّذِينَ  
 يُجَادِلُونَ فِي آيَاتِنَا مَا لَهُمْ مِنْ قَمِيصٍ ﴿٣٩﴾ فَمَا أُوْتِيتُمْ مِنْ شَيْءٍ فَمَتَّعْ  
 الْحَيَاةَ الدُّنْيَا وَمَا عِنْدَ اللَّهِ خَيْرٌ وَأَبْقَى لِلَّذِينَ آمَنُوا وَعَلَىٰ رَبِّهِمْ  
 يَتَوَكَّلُونَ ﴿٤٠﴾ وَالَّذِينَ يَحْتَسِبُونَ كِبَارَ الْأَنْبِيَاءِ وَالْفَوَاحِشَ وَإِذَا مَا  
 غَضِبُوا هُمْ يَغْفِرُونَ ﴿٤١﴾ وَالَّذِينَ اسْتَجَابُوا لِرَبِّهِمْ وَأَقَامُوا الصَّلَاةَ  
 وَأَمْرُهُمْ شُورَىٰ بَيْنَهُمْ وَمِمَّا رَزَقْنَاهُمْ يُنفِقُونَ ﴿٤٢﴾ وَالَّذِينَ إِذَا أَصَابَهُمُ  
 الْبَغْيُ هُمْ يَنْتَصِرُونَ ﴿٤٣﴾ وَجَزَاءُ سَيِّئَةٍ سَيِّئَةٌ مِّثْلُهَا فَمَنْ عَفَا  
 وَأَصْلَحَ فَأَجْرُهُ عَلَى اللَّهِ إِنَّهُ لَا يُحِبُّ الظَّالِمِينَ ﴿٤٤﴾ وَلَمَنْ أَنْتَصَرَ  
 بَعْدَ ظُلْمِهِ فَأُولَٰئِكَ مَا عَلَيْهِمْ مِنْ سَبِيلٍ ﴿٤٥﴾ إِنَّمَا السَّبِيلُ عَلَى  
 الَّذِينَ يَظْلِمُونَ النَّاسَ وَيَبْغُونَ فِي الْأَرْضِ بِغَيْرِ الْحَقِّ أُولَٰئِكَ  
 لَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٤٦﴾ وَلَمَنْ صَبَرَ وَغَفَرَ إِنَّ ذَلِكَ لَمَنْ عَزِمُ  
 الْأُمُورِ ﴿٤٧﴾ وَمَنْ يُضِلِلِ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِنْ وَلِيٍّ مِنْ بَعْدِهِ وَتَرَى  
 الظَّالِمِينَ لَمَّا رَأَوْا الْعَذَابَ يَقُولُونَ هَلْ إِلَىٰ مَرَدٍّ مِنْ سَبِيلٍ ﴿٤٨﴾

ため、打ち勝つ者たち。特に容赦することにおいて福利がない場合、このような状況を克服することは、一つの権利である。

④① 自分の権利を満たすことを望む者は、そうすることが出来る。だがそれも、増加させたりやり過ぎたりすることなく、同様のもの  
 で報いなければならない。悪いことをされても赦し、そのことを咎めせず、兄弟との関係を正す者の褒美は、アッラーのもとにある。  
 ④② **かれ**は、人の生命や財産や尊厳において不正を犯す者をお好きにはならず、むしろお嫌いになる。

④③ 自分自身のために勝利する者たちには、その権利に関してお咎めはない。

④④ 咎められ罰を受けるべきは、人に不正を働き、地上で罪を犯す者たち。かれらには来世において、痛ましい罰がある。

④⑤ しかし人から害を受けて忍耐し、それを大目に見る者については、その忍耐の利益はかれ自身と社会へと帰される。それは称え  
 られるべきものであり、幸運な者しかそこへと導かれることはない。

④⑥ アッラーによって導きから見捨てられ、真理から迷い去った者は、**かれ**の他にいかなる保護者もない。不信仰と罪によって自分  
 自身に不正を働いた者は、審判の日に罰を目の当たりにすると、期待を持ってこう言う。「現世に戻ってアッラーに悔悟する術はある  
 のでしょうか?」

### 本諸節の功德:

- 忍耐と感謝は、アッラーの印を熟考することへと導かれる要因である。
- イスラームにおける相談の重要性。
- 不正を受けた者が、同様のものでも報いることの合法性。しかし赦すことの方が優れている。

③① また、海を行く船は、その高さや大きさや山々のようであるが、それもまたアッラーの力と唯一性を示す印である。

③② アッラーが望めば、船を動かす風を止ませて船を停滞させ、海上に不動のまま留まらせる。船の創造、風の奉仕は、試練において忍耐強く、アッラーの恩恵には感謝深い全ての者への、アッラーの力を示す明証である。

③③ 人々が稼いだ罪のため、**かれ**が台風を吹かせて船の破滅を望めば、それを破壊したであろう。だが**かれ**は僕たちの罪の多くを大目に見て下さり、罰を下さない。

③④ 台風によって船が破滅する時、アッラーの印を虚妄とすべく議論する者たちは、破滅からの逃げ道がないことを知る。かれらはその時アッラーだけに祈り、その他のものを放棄する。

③⑤ 人々よ、あなた方が授かった財産、地位、子息といったものは現世の生活の楽しみであり、消え行くもの。永續する安寧は、アッラーが**かれ**とその使徒たちを信じ、全ての物事において主だけに依拠する者たちのために準備した、天国の安寧である。

③⑥ 醜い大罪から遠ざかり、悪い言動をされてもその過ちを赦し、それに対して報いない者たち。そしてその赦しの心は、赦すことによる福利のためであり、かれらの寛大さから来るもの。

③⑦ また、そのご命令と禁止事項を守ることで主に応え、礼拝を完全な形で行う者たち。そして重要な物事について相談し合い、**われら**の授けたものの内からアッラーのお顔を求めて費やす者たち。

③⑧ また不正を被れば、不正を行う者が容赦するに相応しくはない場合において、自分自身の大切さと威厳のため、打ち勝つ者たち。特に容赦することにおいて福利がない場合、このような状況を克服することは、一つの権利である。

وَتَرَاهُمْ بَعْرَضُونَ عَلَيْهَا خَشِيعِينَ مِنَ الدَّلِّ يَنْظُرُونَ  
 مِنْ طَرَفِ خَفِيِّ وَقَالَ الَّذِينَ ءَامَنُوا إِنَّ الْخَاسِرِينَ الَّذِينَ  
 خَسِرُوا أَنفُسَهُمْ وَأَهْلِيهِمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ أَلَا إِنَّ الظَّالِمِينَ  
 فِي عَذَابٍ مُّقِيمٍ ﴿٤٥﴾ وَمَا كَانَ لَهُمْ مِنْ أَوْلِيَاءَ يَنْصُرُونَهُمْ  
 مِنْ دُونِ اللَّهِ وَمَنْ يُضِلِلِ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِنْ سَبِيلٍ ﴿٤٦﴾ أَسْتَجِيبُوا  
 لِرَبِّكُمْ مِنْ قَبْلِ أَنْ يَأْتِيَ يَوْمٌ لَا مَرَدَّ لَهُ مِنْ اللَّهِ مَا لَكُمْ  
 مِنْ مَدْجٍ يَوْمَئِذٍ وَمَا لَكُمْ مِنْ نَكِيرٍ ﴿٤٧﴾ فَإِنِ أَعْرَضُوا  
 فَمَا أَرْسَلْنَاكَ عَلَيْهِمْ حَفِيظًا إِنَّ عَلَيْكَ إِلَّا الْبَلَاغُ وَإِنَّا إِذَا  
 أَذَقْنَا الْإِنْسَانَ مِنَّا رَحْمَةً فَفَرِحَ بِهَا وَإِن تُصِيبْهُمْ سَيْئَةٌ  
 بِمَا قَدَّمَتْ أَيْدِيهِمْ فَإِنَّ الْإِنْسَانَ كَفُورٌ ﴿٤٨﴾ لِلَّهِ مُلْكُ  
 السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ يَخْلُقُ مَا يَشَاءُ يَهَبُ لِمَنْ يَشَاءُ إِن تَشَاءُ  
 وَإِنَّهُ لَمِنَ يَشَاءِ الذُّكُورِ ﴿٤٩﴾ أَوْ يُرَوِّجُهُمْ ذُكْرَانًا وَإِن تَشَاءُ  
 وَيَجْعَلُ مَنْ يَشَاءُ عَقِيمًا إِنَّهُ وَعَلِيمٌ قَدِيرٌ ﴿٥٠﴾ وَمَا كَانَ  
 لِبَشَرٍ أَنْ يُكَلِّمَهُ اللَّهُ إِلَّا وَحْيًا أَوْ مِنْ وَرَائِ حِجَابٍ أَوْ يُرْسِلَ  
 رَسُولًا فَيُوحِيَ بآذَانِهِ مَا يَشَاءُ إِنَّهُ وَعَلِيُّ حَكِيمٌ ﴿٥١﴾

④⑤使徒よ、あなたは、かれら不正者たちが地獄に屈辱的な形で晒され、余りの恐怖から人々をちらりちらりと伺うのを見る。アッラーとその使徒たちを信じた者たちは、言う。「真の損失者とは、アッラーの罰を受けることによって、自分自身と家族を損じる者たち。不信仰と罪によって自分自身に不正を犯した者は、終わりのない永劫の罰の中にいる。

④⑥かれらには審判の日、かれらをアッラーの罰から救ってくれる保護者はいない。アッラーが真理への導きから見捨てた者に、真理への導きへと続く道はない。」

④⑦人々よ、審判の日が来る前に、主のご命令と禁止事項の遵守を先延ばしにすることなく急ぐことで、**かれ**に相應るのだ。到来すれば押し戻すことの不可能なその日が来れば、あなた方に避難所はないし、現世で稼いだ罪を否定することも出来ないのだ。

④⑧もしかれらがその命令に背を向けても、使徒よ、**われ**らはあなたを、かれらの行いの記録者として遣わしたのではない。あなたは伝達を命じられたことを伝えるだけであり、清算はアッラーが請け負う。人間は、**われ**らが豊かさや健康などの慈悲を味わわせてやれば得意になり、自分の罪が原因で悪い試練を被れば、アッラーの恩恵の否定と恩知らずさ、アッラーの英知による定めに対する憤りへと傾くのが、その性質なのだ。

④⑨-⑤①アッラーは天地の王であり、男女それ以外のあらゆるお望みのものを創造する。お望みの者には男子は授けても女子は授けず、また女子は授けても男子は授けない。またお望みの者には、男子と女子のいずれも与えたり、お望みの者を子供が産まれない者としたりもする。**かれ**は存在しているものも、これから存在するものも、ご存知のお方。**かれ**には完全なる知識と英知があり、全てお見通しで、何も不可能なことはない。

⑤①アッラーが人間に語りかけるのは、言葉を投げ込まれたりすることによる啓示か、**かれ**が見えない状態で**かれ**が語りかけてくる言葉によるものか、あるいはジブリールなどの天使が遣わされて人間である使徒にアッラーが望んだ啓示を伝えることの、いずれかではない。**かれ**はその本質と属性において至高のお方、その創造と定めと法規において英知あふれたお方。

### 本諸節の功德:

- アッラーのご命令と禁止事項の遵守へと急ぐことの義務。
- 使徒の義務は伝達であり、結果はアッラーに委ねられる。
- 男子を授かるか、女子を授かるか、あるいはそのいずれも授かるかということは、それが僕の福利に適うかどうかに関するアッラーの知識によるもの。男子が女子に優れているということはない。
- アッラーの使徒たちに対する啓示の手段は多様だが、それもまたアッラーの英知によるものである。

وَكَذٰلِكَ اَوْحَيْنَا اِلَيْكَ رُوحًا مِّنْ اَمْرِنَا مَا كُنْتَ تَدْرِي مَا الْكِتٰبُ  
 وَلَا الْاِيْمٰنُ وَلٰكِنْ جَعَلْنَاهُ نُوْرًا نُّهْدِيْ بِهٖ مَنْ نَّشَاءُ مِنْ عِبَادِنَا  
 وَاِنَّكَ لَنَهْدِيْ اِلَى صِرَاطٍ مُّسْتَقِيْمٍ ﴿٥٧﴾ صِرَاطِ اللّٰهِ الَّذِي لَهٗ  
 مَا فِى السَّمٰوٰتِ وَمَا فِى الْاَرْضِ ۗ اِلَّا اِلَى اللّٰهِ تَصِيْرُ الْاُمُوْرِ ﴿٥٨﴾

سُورَةُ الشُّجُرٰتِ ﴿٤٣﴾

بِسْمِ اللّٰهِ الرَّحْمٰنِ الرَّحِيْمِ

حَمِّ ﴿١﴾ وَالْكِتٰبِ الْمُبِيْنِ ﴿٢﴾ اِنَّا جَعَلْنَاهُ قُرْءٰنًا عَرَبِيًّا  
 لَّعَلَّكُمْ تَعْقِلُوْنَ ﴿٣﴾ وَاِنَّهٗ وَفِىْ اَمْرِ الْكِتٰبِ لَدَيْنَا  
 لَعَلٰى حَكِيْمٍ ﴿٤﴾ اَفَنْصِرُكُمْ اَمْ نَكْفُرُكُمْ اَلَّذِيْ كَرِهْتُمْ  
 اَنْ كُنْتُمْ قَوْمًا مُّسْرِفِيْنَ ﴿٥﴾ وَكَمْ اَرْسَلْنَا مِنْ نَّبِيٍّ فِى  
 الْاَوَّلِيْنَ ﴿٦﴾ وَمَا يَأْتِيهِمْ مِنْ نَّبِيٍّ اِلَّا كَانُوْا بِهٖ يَسْتَهْزِءُوْنَ  
 ﴿٧﴾ فَاَهْلَكْنٰ اَشَدَّ مِنْهُمْ بَطْشًا وَّمَضٰى مِثْلُ الْاَوَّلِيْنَ  
 ﴿٨﴾ وَلٰكِنْ سَاَلْتَهُمْ مَنْ خَلَقَ السَّمٰوٰتِ وَالْاَرْضَ ۗ لَيَقُوْلُنَّ  
 خَلَقْنٰهُنَّ الْعَزِيْزُ الْعَلِيْمُ ﴿٩﴾ الَّذِيْ جَعَلَ لَكُمْ الْاَرْضَ  
 مَهْدًا وَّجَعَلَ لَكُمْ فِيْهَا سُبُلًا لَّعَلَّكُمْ تَهْتَدُوْنَ ﴿١٠﴾

金の裝飾章

489

部 25

②使徒よ、われらは、あなた以前に預言者たちを遣わしたのと同様、あなたにはわれらのもとからクルアーンを啓示した。あなたはそれ以前、使徒たちに下された諸啓典が何かを知らなかったし、信仰が何かも知らなかった。だがわれらはこのクルアーンを、われらが望む僕たちをそれによって導く光として下したのだ。そしてあなたは人々に真っ直ぐな道であるイスラームを、示すのである。

③その創造、王権、采配において、天地にあるもの全てが属するアッラーの道へ。物事はその定めと采配において、必ずアッラーだけに戻されるのである。

### 43. 金の裝飾章(アッ・ズフルフ)

マッカ啓示

#### 本章の趣旨:

不信仰に陥らないように、現世の虚飾に惑わされないようにとの警告

#### 説明:

①「ハー・ミーム」については、雌牛章冒頭に同様のアーヤの説明あり。

②アッラーは、真理への導きの道を明らかにするクルアーンにかけて、誓う。

③われらはそれを、アラビア語によるクルアーンとした。それが下された言葉の者たちよ、それはあなた方がその意味を理解し、別の民へと伝えるようにである。

④守護された碑板の中にあるこのクルアーンは、位高く、英知にあふれたもの。命令や禁止事項において、そのアーヤは万全に定められている。

⑤あなた方の度を越えた多神と罪のために、われらがあなた方にクルアーンを下すことを控えるということがあろうか?そのようなことはない。むしろあなた方への慈悲が、それとは逆のことをさせるのだ。

⑥過去の数多くの民に、一体われらはどれだけ多くの預言者を遣わしてきたことか。

⑦それらの民のもとにアッラーのもとから預言者が遣わされれば、必ずかれらは預言者を馬鹿にしたのである。

⑧われらはかれらよりも強力な民を滅ぼしたのだから、それ以下の者たちを滅ぼせないことはない。クルアーンの中にはアード、サムード、ルートの民、マドヤンの民など、過去の民の滅亡が描写されている。

⑨使徒よ、もしかれら嘘呼ばわりする多神教徒たちに、「誰が天地を創造したのか?」と尋ねれば、かれらは答えて言うだろう。「誰にも制圧されない偉大なお方、全知のお方がそれらを創造した。」

⑩アッラーはあなた方のために大地を平坦にし、あなた方の足で踏み固められる場所とされたお方。またあなた方が正しく進路を歩めるようにと、その山々や谷に道を通されたお方。

#### 本諸節の功德:

- 啓示が魂と呼ばれているのは、人々を導くその重要性のためである。導きは身体にとって魂のような地位にある。
- 使徒に結び付けられている導きは、最終的な導きではなく、伝道による導きのこと。
- 多神教徒たちがアッラーの主性を信じていたとしても、それが審判の日に役立つことはない。



وَالَّذِي نَزَّلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً يَقْدَرُ فَأَنْشَرْنَا بِهِ بَلْدَةً مَيْتًا  
 كَذَلِكَ نُخْرِجُوهَا ۝ وَالَّذِي خَلَقَ الْأَزْوَاجَ كُلَّهَا وَجَعَلَ  
 لَكُم مِّنَ الْفَلَكَ وَالْأَنْعَامِ مَا تَرْكَبُونَ ۝ لَتَسْتَوُوا عَلَىٰ ظُهُورِهِ  
 ثُمَّ تَذْكُرُونَ نِعْمَةَ رَبِّكُمْ إِذَا اسْتَوَيْتُمْ عَلَيْهِ وَتَقُولُوا سُبْحٰنَ  
 الَّذِي سَخَّرَ لَنَا هَذَا وَمَا كُنَّا لَهُ مُقْرِنِينَ ۝ وَإِنَّا إِلَىٰ رَبِّنَا  
 لَمُنْقَلِبُونَ ۝ وَجَعَلُوا اللَّهَ مِنْ عِبَادِهِ جُزْءًا إِنَّا لِلْإِنسٰنِ  
 لَكَفُورٌ مُّبِينٌ ۝ أَمْ اتَّخَذَ مِمَّا يَخْلُقُ بَنَاتٍ وَأَصْفٰنَكُمْ  
 بِالْبَيْنِينَ ۝ وَإِذَا بَشَّرَ أَحَدَهُمْ بِمَا ضَرَبَ لِلرَّحْمٰنِ مَثَلًا  
 ظَلَّ وَجْهُهُ مُسْوَدًّا وَهُوَ كَظِيمٌ ۝ أَوْ مَن يَدَّشُوْا فِي  
 الْحَلِيَةِ وَهُوَ فِي الْخِصَامِ غَيْرُ مُبِينٍ ۝ وَجَعَلُوا الْمَلَائِكَةَ  
 الَّذِينَ هُمْ عِبَادُ الرَّحْمٰنِ إِنثًا أَشْهَدُوا وَخَلَقَهُمْ سَكَنًا  
 سَهَدَتْ لَهُمْ وَيُسَلِّوْنَ ۝ وَقَالُوا لَوْ شَاءَ الرَّحْمٰنُ مَا عَبَدْنَاهُمْ  
 مَا لَهُمْ بِذٰلِكَ مِنْ عِلْمٍ إِن هُمْ إِلَّا يَخْرُصُونَ ۝ أَمْ آتَيْنَاهُمْ  
 كِتٰبًا مِّن قَبْلِهِ فَهُمْ بِهِ مُسْتَمْسِكُونَ ۝ بَلْ قَالُوا إِنَّا  
 وَجَدْنَا آبَاءَنَا عَلَىٰ أُمَّةٍ وَإِنَّا عَلَىٰ آثَرِهِمْ مُّهْتَدُونَ ۝

11 **かれ**は天から、あなた方と、あなた方の家畜や作物に十分な量の水を降らせ、それで乾いた不毛の大地に生を与えるお方。乾いた大地を植物によって生き返らせるのと同様、アッラーはあなた方を復活のため、生き返らせる。

12 また、**かれ**は夜と昼、男と女など、あらゆる種類のことを創造した。船や家畜をあなた方が旅で乗るものとし、船は海での、家畜は陸の乗用物とした。

13 **かれ**はあなた方のためにそれら全てをそのようにしたが、それはあなた方が旅でそれらの上に乗って腰を落ち着けた時、主があなた方にそれを仕えさせたという恩恵を思い出して、こう言うようにするためである。「この乗り物をわたしたちに準備し、仕えさせてくれたお方は崇高である。アッラーがそれを仕えさせてくれなければ、わたしたちはそれを操作することが出来なかったのだ。

14 そしてわたしたちは清算と報いのため、死後には主のもとにのみ帰り行くのだ。」

15 多神教徒たちは、ある種の被造物が創造主から誕生したと思い込んで、言った。「天使たちはアッラーの娘である。」このようなことを言う人間は、明らかな不信仰と迷いの中にある。

16 多神教徒たちよ、あなた方は自分たちには子供の内から男子を選んでおいて、「アッラーはご自身がお創りになったものの中から、ご自身のために娘を選んだ」などと言うのか？あなた方が主張する配分は、いかなる配分なのか？

17 あなた方は、自分たちがアッラーに結び付けている女子を授かる吉報を受ければ、不安と悲しみが顔が黒くなり、怒りで一杯になる。では、どうして自分たちが悩ましく思うものを、アッラーに結びつけるのか？

18 飾り立てられて育てられ、議論において言葉も明確ではないものを主に結びつけるというのか？

19 また、かれらは慈悲あまねきお方(アッラー)の僕である天使たちに、女性の名をつけた。かれらはアッラーがかれら(天使たち)を創造した時に立会い、かれらが女性だということを確認したというのか？天使たちはかれらのこの証言を記録し、審判の日にそのことについて尋ね、その嘘のためにかれらを罰しよう。

20 また、かれらは定命にかこつけて、言った。「もしアッラーが、わたしたちが天使を崇拝しないことをお望みなら、わたしたちはかれらを崇拝しなかっただろう。**かれ**がそのことを望まなかったのは、そのことに満足しているからなのだ。」かれらのこの言葉は知識によるものではなく、かれらは嘘をついているだけだ。

21 それともわれらがクルアーン以前、**かれら**に啓典を授け、その中でアッラー以外のものの崇拝を許したというのか？そしてかれらはその啓典にこだわり、それを根拠としているというのか？

22 いや、そのようなことはない。また、かれらは模倣を言い訳にして、こう言う。「わたしたちは、わたしたちの先祖が宗教を信じているのを見出した。かれらは偶像を崇拝していた。わたしたちは崇拝において、かれらの後を継ぐのだ。」

### 本諸節の功德:

- あらゆる恩恵は感謝で応える必要がある。
- 多神教徒たちが、自分たちは毛嫌いしている女性をアッラーに結びつけたことにおける不正。
- 定命を罪の言い訳にすることの無意味さ。
- 目視は、事実を確認するための基本の一つである。

وَكَذٰلِكَ مَا اَرْسَلْنَا مِنْ قَبْلِكَ فِي قَرْيَةٍ مِّنْ نَّذِيرٍ اِلَّا قَالُ مُتْرَفُوهَا  
 اِنَّا وَجَدْنَا عِبَادًا عَلٰى اُمَّةٍ وَاِنَّا عَلٰى اٰتْرِهِمْ مُّقْتَدُونَ ﴿٣٠﴾  
 \* قُلْ اَوْ لَوْ جِئْتُمْكُمْ بِاِهْدٰى وَمَا وَجَدْتُمْ عَلَيْهِ عِبَادًا كُمْ  
 قَالُوْا اِنَّا بِمَا اَرْسَلْتُمْ بِهِۦهٗ كٰفِرُونَ ﴿٣١﴾ فَاَنْتَقَمْتُمْ مِنْهُمْ فَانظُرْ  
 كَيْفَ كَانَ عَقِبَةُ الْمُكْذِبِيْنَ ﴿٣٢﴾ وَاِذْ قَالِ اِتْرٰهِيْمُ لَا يَبِيْهٖ وَقَوْمِهٖ  
 اِنِّيْ بَرَاءٌ مِّمَّا عَبَدُوْنَ ﴿٣٣﴾ اِلَّا الَّذِيْ فَطَرَنِيْ فَاِنَّهٗ وَسِيْهَدِيْنَ  
 ﴿٣٤﴾ وَجَعَلَهَا كَلِمَةً بَاقِيَةً فِيْ عَقِبِهٖ لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُوْنَ ﴿٣٥﴾ بَلْ  
 مَعَتَتْ هَلُوْلَاءُ وَاَبَاَهُمْ حَتّٰى جَاءَهُمُ الْحَقُّ وَرَسُولٌ مُّبِيْنٌ ﴿٣٦﴾  
 وَلَمَّا جَاءَهُمُ الْحَقُّ قَالُوْا هٰذَا سِحْرٌ وَاِنَّا بِهٖ كٰفِرُونَ ﴿٣٧﴾ وَقَالُوْا  
 لَوْلَا نَزَلَ هٰذَا الْفُرْقٰنُ اَنْ عَلٰى رَجُلٍ مِّنَ الْقَرْيَتَيْنِ عَظِيْمٍ ﴿٣٨﴾ اَهُمْ  
 يَقْسَمُوْنَ رَحْمَتَ رَبِّكَ لَنْ نُّقَسِمَنَّ بِبَيْنِهِمْ مَّعِيْشَتَهُمْ فِي الْحَيٰوةِ  
 اَلْدُّنْيَا وَرَفَعْنَا بَعْضَهُمْ فَوْقَ بَعْضٍ دَرَجٰتٍ لِّيَتَّخِذَ بَعْضُهُمْ  
 بَعْضًا سَخِرِيًّا وَّرَحْمَتَ رَبِّكَ خَيْرٌ مِّمَّا يَجْمَعُوْنَ ﴿٣٩﴾ وَلَوْلَا  
 اَنْ يَكُوْنَ النَّاسُ اُمَّةً وَّحِدَةً لَّجَعَلْنَا لِمَنْ يَكْفُرُ بِالرَّحْمٰنِ  
 لِبُيُوْتِهِمْ سُقْفًا مِّنْ فِضَّةٍ وَمَعَارِجَ عَلَيْهِا يَظْهَرُوْنَ ﴿٤٠﴾

らの祖先のことも、クルアーンと使徒ムハンマドが到来するまで楽しませておいたのだ。

〔30〕かれらのもとに、疑念のない真理であるこのクルアーンがやって来た時、かれらは言った。「これは、ムハンマドがわたしたちにかけた魔術だ。わたしたちはそれを否定し、信じない。」

〔31〕嘘呼ばわりした多神教徒たちは言った。「アッラーはこのクルアーンを貧しい孤児のムハンマドではなく、マッカカターフの偉大な二人の男(アルワリード・ブン・ウクバと、ウルワ・ブン・マスワード・アッサカフィー)のいずれかに下さなかったのか?」

〔32〕使徒よ、かれらが主のご慈悲を分配し、望む者に与え、望む者からは阻むのか?それとも、そうするのはアッラーなのか?われらがかれらの間に現世の糧を分配し、かれらの中に富者と貧者をつくったのである。それは、ある者が別の者に奉仕するようにさせるため。そして僕に対する来世での主のご慈悲こそは、消え行く現世でかれらが集める享樂よりも優れたものなのだ。

〔33〕人々が不信仰のもとに一つの民になるのでなければ、われらはアッラーを否定する者の家を銀の屋根とし、かれらが登るための階段を作ってやっただろう。

### 本諸節の功德:

●過去の民が迷いの状態にあった一つの原因が、模倣である。

●不信仰と不信仰者からの無縁性は要求される。

●糧の分配はアッラーの英知によるもの。

●アッラーにとって現世は取るに足らない些細なものである。もしそれがハエの羽ほどの重みでもあったなら、現世において不信仰者は水一杯ありつけることがなかつただろう。

〔29〕かれらは嘘呼ばわりし、祖先の模倣を言い訳にしたが、それと同様に使徒よ、われらはあなた以前にその民に警告する使徒を遣わしたが、民の裕福な指導者らは決まってこう言ったのだ。「わたしたちは、わたしたちの先祖が宗教を信じているのを見出した。そしてわたしたちは、かれらの後を継ぐのだ。」だから、あなたの民が最初にそのようなことを言ったわけではない。

〔24〕かれらの使徒は、かれらに言った。「わたしがかれらの宗教より優れたものをもたらしたのに、あなた方は先祖に従うのか?」かれらは言った。「わたしたちは、あなたと、あなた以前の使徒たちがもたらしたものを否定する。」

〔25〕こうしてわれらは、あなた以前に使徒たちを嘘呼ばわりした民に復讐し、かれらを滅ぼした。使徒たちを嘘呼ばわりした者たちの結末がどのようなものだったか、熟考するがよい。それは痛ましい最期だったのだから。

〔26〕使徒よ、イブラーヒームがその父と民に、こう言った時のことを思い出させよ。「わたしは、あなたの方がアッラーをよそに崇拜している偶像と、無縁である。」

〔27〕ただ、わたしを創造したアッラーは別で、かれはわたしを、かれの正しい宗教へと導いて下さる。」

〔28〕イブラーヒームは「ラー・イラー・ハ・イッラッラー(アッラーの他に崇拜すべきものはなし)」というアッラーの唯一性の言葉を、かれ以後の子孫に残るものとした。だからかれら(イブラーヒームの子孫)の中には、アッラーに何も並べずにかれだけを崇拜する者がいる。かれ(イブラーヒーム)は、かれらが多神教と罪から悔悟し、アッラーへと立ち返ることを望んでいた。

〔29〕われはかれら多神教徒たちの罰を急がず、むしろ現世での滞在を楽しませておいた。またかれら以前のかれらの祖先のことも、クルアーンと使徒ムハンマドが到来するまで楽しませておいたのだ。

③٤ また、われらはかれらの家に扉を付け、寄りかかるためのベッドを作ってやっただろう。だがそれらはかれらに対する試練であり、着実に忍び寄る罰なのだ。

③٥ また、われらはかれらに黄金を与えただろう。それら全ては現世の享楽であり、永続しないため、その益は少ない。そして使徒よ、来世であなたの主のもとにある安寧こそは、そのご命令と禁止事項を守ることによってアッラーを恐れる者たちにとって、よりよいのである。

③٦ クルアーンをよく吟味もせずに見て背を向ける者は、シャイターンにずっと付きまとわれることで罰される。そしてかれ(シャイターン)により、更なる迷いを加えられる。

③٧ かれらクルアーンに背を向ける者たちに付きまとわされる同伴者たち(シャイターン)は、かれらアッラーの宗教から阻む。それでかれらはその命令に従わず、禁止事項を避けもせず、自分たちが真理に導かれている者だと思ひ込んでおり、迷いの状態から悔悟することもない。

③٨ アッラーの唱念に背を向ける者たちは審判の日によって来ると、切望してこう言う。「同伴者よ、わたしとあなたとの間に東西ほどの距離があったなら!」それは何と醜悪な同伴者だろうか。

③٩ アッラーは審判の日、不信仰者たちに言う。「あなた方は多神教と罪によって自らに不正を働いた。この日、あなた方は罰の中に集結するが、その集結があなた方を益することはない。あなた方の共同者たちは、あなた方の罰を少しも背負ってはくれないのだ。」

④٠ かれらは真理を聞くことに対して耳をふさがれ、それを目にすることから盲目だった。使徒よ、あなたは耳が聞こえない者に聞かせたり、盲目な者を導いたり、真っ直ぐな道から明らかに迷っている者を導いたりすることが出来るというのか?

④١ もし、われらがかれらに死を与える前に、あなたを死によって旅立たせたとしても、われらがかれらを現世と来世における罰で復讐するのだ。

④٢ または、われらはわれらがかれらに警告する罰の一部を、あなたに見せよう。われらがかれらに対してそうすることが出来るのであり、かれらがわれらに打ち勝つことなどはない。

④٣ 使徒よ、主があなたに啓示したことを固守し、それに基づいて行え。あなたは間違いなく真理の道の上にある。

④٤ このクルアーンはあなたと、あなたの民にとっての榮譽である。あなた方は審判の日、それを信じ、その導きに従い、そこへと招いたかどうかについて、尋ねられることになる。

④٥ 使徒よ、あなた以前にわれらが遣わした使徒たちに尋ねてみよ。慈悲あまねきお方(アッラー)をよそに、崇拝される対象を作ったのか、と。

④٦ われらはムーサーをわれらの印と共にフィルアウンと、その民の貴族へと遣わした。かれはかれらに言った。「わたしは全被造物の主の使徒である。」

④٧ かれがわれらの印と共にかれらのもとにやって来ると、かれらはそれを蔑んで笑いものにした。

وَلْيُبَيِّنْ لَهُمُ آيَاتِنَا وَسُورَةَ آلِ إِبْرَاهِيمَ الَّتِي كَانُوا يُشْرِكُونَ ﴿٣٥﴾ وَزُخْرَفًا وَإِنْ  
كُلَّ ذَلِكَ لَمَّا مَتَعَ الْحَيَوَةَ الدُّنْيَا وَالْآخِرَةَ عِنْدَ رَبِّكَ  
لِلْمُتَّقِينَ ﴿٣٦﴾ وَمَنْ يَعِشْ عَنْ ذِكْرِ الرَّحْمَنِ نُفِضْ لَهُ وَشَيْطَانًا  
فَهُوَ لَهُ وَقِيرٌ ﴿٣٧﴾ وَإِنَّهُمْ لَيَصُدُّونَهُمْ عَنِ السَّبِيلِ وَيَحْسَبُونَ  
أَنَّهُمْ مُّهْتَدُونَ ﴿٣٨﴾ حَتَّىٰ إِذَا جَاءَنَا قَالَ يَلَيْتَ بَيْنِي وَبَيْنَكَ  
بُعْدَ الْمَشْرِقَيْنِ فَيَشْسُ الْقُرَيْنِ ﴿٣٩﴾ وَكَنْ يَنْفَعَكُمُ الْيَوْمَ  
إِذْ ظَلَمْتُمْ أَنْكُمْ فِي الْعَذَابِ مُشْتَرِكُونَ ﴿٤٠﴾ أَفَأَنْتَ تُسْمِعُ  
الصَّمَّ أَوْ تَهْدِي الْعُمْى وَمَنْ كَانَ فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٤١﴾ فَأِمَّا  
نَذَهَبَنَّ بِكَ فَإِنَّا مِنْهُمْ مُنْتَقِمُونَ ﴿٤٢﴾ أَوْ نُزَيِّنَنَّكَ الَّذِي  
وَعَدْتَهُمْ فَإِنَّا عَلَيْهِم مُّقْتَدِرُونَ ﴿٤٣﴾ فَاسْتَمْسِكْ بِالَّذِي أُوحِيَ  
إِلَيْكَ إِنَّكَ عَلَىٰ صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ ﴿٤٤﴾ وَإِنَّهُ لَذِكْرٌ لَكَ وَلِقَوْمِكَ  
وَسَوْفَ نُنَسِّئُونَ ﴿٤٥﴾ وَسَعَلْ مَنْ أَرْسَلْنَا مِنْ قَبْلِكَ مِنْ رُسُلِنَا  
أَجَعَلْنَا مِنْ دُونِ الرَّحْمَنِ آلِهَةً يُعْبَدُونَ ﴿٤٦﴾ وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا  
مُوسَىٰ بِآيَاتِنَا إِلَىٰ فِرْعَوْنَ وَمَلَئِهِ فَقَالَ إِنِّي رَسُولُ رَبِّ  
الْعَالَمِينَ ﴿٤٧﴾ فَلَمَّا جَاءَهُمْ بِآيَاتِنَا إِذَا هُمْ مِنْهَا يَضْحَكُونَ ﴿٤٨﴾

### 本諸節の功德:

- クルアーンに背を向けることの危険性。
- クルアーンは、アッラーの使徒とその共同体にとっての榮譽である。
- 全ての天啓のメッセージは、多神の破棄で一致している。
- 真理を笑いものにすることは、不信仰の特性である。

وَمَا نُرِيهِمْ مِّنْ آيَةٍ إِلَّا هِيَ أَكْبَرُ مِنْ أُخْتِهَا وَأَخَذْنَاهُمْ بِالْعَذَابِ لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ﴿٤٩﴾ وَقَالُوا يَا أَيُّهُ السَّاحِرَ الدَّاعِ لَنَا رَبَّكَ بِمَا عَهِدَ عِنْدَكَ إِنَّا لَمُهْتَدُونَ ﴿٤٩﴾ فَلَمَّا كَشَفْنَا عَنْهُمْ الْعَذَابَ إِذَا هُمْ يَنْكُثُونَ ﴿٥٠﴾ وَنَادَى فِرْعَوْنُ فِي قَوْمِهِ قَالَ يَا قَوْمِ أَرَأَيْتُمْ لِي مُلْكُ مِصْرَ وَهَذِهِ الْأَنْهَارُ تَجْرِي مِن تَحْتِي أَفَلَا تَبْصُرُونَ ﴿٥١﴾ أَمْ أَنَا خَيْرٌ مِّنْ هَذَا الَّذِي هُوَ مَهِينٌ وَلَا يَكَادُ يُبِينُ ﴿٥٢﴾ فَلَوْلَا أَلْقَى عَلَيْهِ أَسُورَةٌ مِّنْ ذَهَبٍ أَوْ جَاءَ مَعَهُ الْمَلَأِيُّكَهُ مُقْتَرِنِينَ ﴿٥٣﴾ فَأَسْتَحَفَّ قَوْمَهُ وَفَاطَا عُوهُ إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمًا فَاسِقِينَ ﴿٥٤﴾ فَلَمَّا آسَفُونَا انْتَقَمْنَا مِنْهُمْ فَأَغْرَقْنَاهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٥٥﴾ وَجَعَلْنَاهُمْ سَلَفًا وَمَثَلًا لِّلْآخِرِينَ ﴿٥٦﴾ \*وَلَمَّا ضُرِبَ ابْنُ مَرْيَمَ مَثَلًا إِذَا قَوْمُكَ مِنْهُ يَصِدُونَ ﴿٥٧﴾ وَقَالُوا يَا أَلِهُنَّ خَيْرٌ مِّنْ أَمِّ هُوَ مَا ضَرَبُوهُ لَكَ إِلَّا جَدًّا بَلْ هُمْ قَوْمٌ خَصِمُونَ ﴿٥٨﴾ إِنْ هُوَ إِلَّا عَبْدٌ أَنْعَمْنَا عَلَيْهِ وَجَعَلْنَاهُ مَثَلًا لِّبَنِي إِسْرَائِيلَ ﴿٥٩﴾ وَلَوْ نَشَاءُ لَجَعَلْنَا مِنْكُمْ مَلَائِكَةً فِي الْأَرْضِ يَخْلُفُونَ ﴿٦٠﴾

الرُّحْمٰنِ

あなたの民の不信仰者たちもかれらの後を継ぐ者とした。そしてかれらのような行いをしてくれらのような目にあわないう、かれらを教訓を得る者への教訓としたのだ。

〔57〕アッラーは偶像崇拜同様、イーサーを崇拜することも禁じた。だが使徒よ、多神教徒たちは、キリスト教徒たちが崇拜したイーサーが、「本当にあなた方(不信者)も、アッラーの他にあなた方が崇拜するものも、地獄の燃料である。あなた方はそこに(必ず)落ちて行くのである。」(21:98)というアッラーの言葉の中にも含まれると考えて、議論の声を上げてわめき散らしながら、こう言うのだ。「わたしたちの神々がイーサーのようだと、これは結構なことだ。」そこでアッラーはそれに対応されて、「われから善が予め許されている者は、地獄から遠く離されている。」[21:101]という節を下されたのである。

〔58〕かれらは言った。「わたしたちの神々が優れているのか、イーサーが優れているのか?」イブン・アズィイバアラーとかれと同様の者たちは、真理を知ること望んでではなく、議論を望んでそのような例えを挙げるのだ。かれらは議論好きな民なのである。

〔59〕マルヤムの子イーサーは、われらが預言者性とメッセージによる恩恵を授けた、アッラーの僕の一にすぎない。われらはかれを、イスラエルの子孫がアッラーの力を知るための一つの例としたのである。われらは、アーダムを両親もなく創造したように、イーサーを父親なしに創造したのだ。

〔60〕アーダムの子孫よ、われらがあなた方を滅ぼすことを望んだなら、滅ぼしただろう。そして天使たちを、アッラーに何も並べることなく崇拜することで、あなた方の代わりに地上を引き継ぐ者としただろう。

### 本諸節の功德:

- 約束の破棄は不信仰者の特徴である。
- 理性に乏しく罪深い者は、容易にそそのかされるものである。
- アッラーの怒りを受けることは即ち損失である。
- 迷妄の徒は私欲に沿った形で、クルアーンの文言の意味するところを変えようと試みる。

〔48〕われらがフィルアウンとその民の貴族に見せた、ムーサーがもたらしたものの正しさを示す証拠は、いつもそれ以前の証拠より偉大なものだった。われらはかれらを現世での罰に処したが、それはかれらが不信仰を止めることを望んでのことだった。しかしそれも無駄だったのだ。

〔49〕かれらは罰の一部が降りかかると、ムーサーに言った。「魔術師よ、もしわたしたちが信仰すれば罰を取り除いてくれるとあなたが言ったもので、わたしたちのために祈ってくれ。もし取り除いてくれたなら、わたしたちは導かれよう。」

〔50〕だが、われらがかれらから罰を取り除いてやると、かれらは約束を守らず、破棄する。

〔51〕フィルアウンは民に向かって呼びかけ、自分の王国について誇らしげに言った。「民よ、わたしにはエジプトの王国があり、このナイル川はわが城砦の下を流れているのではないか?あなた方には、わが王国が見えないのか?あなた方には、わが偉大さが分からないのか?」

〔52〕わたしは弱小で、言葉も上手ではないムーサーよりも優れている。

〔53〕かれが使徒であることが分かるよう、かれを遣わしたアッラーは、かれに黄金のブレスレットを下したり、連なる天使たちをかれと共に遣わしたりしないのか?」

〔54〕こうしてフィルアウンは民をそそのかし、自分の迷妄へとかれらを従わせた。

〔55〕かれらが不信仰に固執してわれらを怒らせた時、われらはかれらに復讐し、かれらをまとめて溺死させた。

〔56〕われらはフィルアウンとその重臣たちを先例とし、あ

⑥1 イーサーが最後の時代に降臨することは、最後の日の大きな予兆の一つである。審判の日が起こることを疑ってはならない。わたしがアッラーから伝えることにおいて、わたしに従うのだ。わたしがアッラーから伝えるこのことこそは、曲折のない真っ直ぐな道なのだから。

⑥2 シャイターンにそそのかされて、真っ直ぐな道から逸れてはならない。かれは明らかな敵意を持った、あなた方に対する敵なのだから。

⑥3 イーサーは、かれが使徒であることを示す明証を携えてかれの民のところに到来した時、こう言った。「わたしはアッラーのもとから、英知を持ってやって来た。また、あなた方が意見を異ならせている、宗教上の物事の一部を説明するために到来した。だから、アッラーのご命令と禁止事項を守ること、**かれ**を恐れよ。わたしがあなた方に命じ、禁止することにおいて、わたしに従うのだ。」

⑥4 アッラーこそはわが主であり、あなた方の主。**かれ**以外、わたしたちに主はない。だから**かれ**だけに純真に、崇拜を行え。この唯一神信仰こそが、曲折のない真っ直ぐな道なのだ。」

⑥5 するとキリスト教徒の集団は、イーサーのことで意見を異ならせた。かれらの一部は言った。「イーサーは神である。」また別の者たちは言った。「かれはアッラーの息子だ。」また別の者たちはこう言った。「かれとその母親は二人の神である。」イーサーを神、または神の息子、または三つのもの(神)の一つなどと形容することにより、自らに不正を働いた者たちに、審判の日の痛ましい罰が降りかかるよう。

⑥6 イーサーのことで議論するこれらの集団は、審判の日が不意に突然訪れるのを待っているのか?もしかれらが不信仰の状態のままそれが到来したら、かれらの行き先は痛ましい罰だというのに。

⑥7 不信仰と迷妄において互いに愛し合い、友情を持つ者たちは、審判の日に敵どうしになる。ただしアッラーのご命令と禁止事項を守ること、**かれ**を恐れる者たちは別。かれらの愛は永続し、途切れることがない。

⑥8 アッラーはかれらに言う。わが僕たちよ、今日あなた方は、あなた方が迎えようとしていることを恐れることもなく、取り損ねた現世の福德について悲しむこともない。

⑥9 かれらには、かれらの使徒に下されたクルアーンを信じ、それに従い、その命令と禁止事項を守っていた者たち。

⑦0 あなたと、あなた方と同様の信仰の者たちは天国に入るがよい。終わることも途切れることもない永遠の安寧を頂いて、喜ぶがよい。

⑦1 かれらの間を、黄金の食器と取っ手のない杯を携えた給仕たちが、回って歩く。天国には各自が所望するもの、目を喜ばせるものがあり、あなた方はそこに留まり、そこから永遠に出ることがない。

⑦2 **われ**があなた方に描写したその天国こそは、あなた方の行いのためにアッラーがあなた方に継がせてくれたもの。

⑦3 そこにはあなた方のために無尽蔵の果実があり、あなた方はそこから食べる。

وَإِنَّهُ وَعَلَّمَ لِلنَّاسَةِ فَلَا تَحْمُرَنَّ بِهَا وَاتَّبِعُونِ هَذَا صِرَاطٌ مُسْتَقِيمٌ ⑥١ وَلَا يَصِدَّنَا الشَّيْطَانُ إِنَّهُ لَكُمُ عَدُوٌّ مُبِينٌ ⑥٢ وَلَمَّا جَاءَ عِيسَى بِالْبَيِّنَاتِ قَالَ قَدْ جِئْتُكُمْ بِالْحِكْمَةِ ⑥٣ وَلَا يَبِينُ لَكُمْ بَعْضَ الَّذِي تَخْتَلِفُونَ فِيهِ فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا ⑥٤ إِنَّ اللَّهَ هُوَ رَبِّي وَرَبُّكُمْ فَأَعْبُدُوهُ هَذَا صِرَاطٌ مُسْتَقِيمٌ ⑥٥ فَاخْتَلَفَ الْأَحْزَابُ مِنْ بَيْنَهُمْ فَوَيْلٌ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا مِنْ عَذَابِ يَوْمِ إِلِيمٍ ⑥٦ هَلْ يَنْظُرُونَ إِلَّا السَّاعَةَ أَنْ تَأْتِيَهُمْ بَغْتَةً وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ⑥٧ الْأَخِلَاءُ يَوْمَئِذٍ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ عَدُوٌّ إِلَّا الْمُتَّقِينَ ⑥٨ يَعْجَادٍ لَأَخَوْفٍ عَلَيْهِمْ أَيْوَمَ وَلَا أَنْتُمْ تَحْزَنُونَ ⑥٩ الَّذِينَ ءَامَنُوا بِآيَاتِنَا وَكَانُوا مُسْلِمِينَ ⑥١٠ ادْخُلُوا الْجَنَّةَ أَنْتُمْ وَأَزْوَاجُكُمْ تُحْبَرُونَ ⑥١١ يُطَافُ عَلَيْهِمْ بِصِحَافٍ مِنْ ذَهَبٍ وَأَكْوَابٍ وَفِيهَا مَا تَشْتَهِيهِ الْأَنْفُسُ وَتَلَذُّ الْأَعْيُنُ وَأَنْتُمْ فِيهَا تَخَلَّدُونَ ⑥١٢ وَتِلْكَ الْجَنَّةُ الَّتِي أُورِثْتُمُوهَا بِمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ⑥١٣ لَكُمْ فِيهَا فَاكِهَةٌ كَثِيرَةٌ مِنْهَا تَأْكُلُونَ ⑥١٤

### 本諸節の功德:

●イーサーの降臨は、審判の日の大きな予兆の一つ。

●審判の日、放縦な者たちの友愛関係は終了し、敬虔な者たちの友愛関係は継続する。

●現世に残してきたものと来世で迎えることに関し、アッラーは敬虔な者たちに吉報を伝え、不安を取り除く。

٧٤ إِنَّ الْمُجْرِمِينَ فِي عَذَابٍ مُّهِينٍ ۖ لَّا يَفْتَرُونَ عَنْهُمْ وَهُمْ فِيهِ مُبْسُوتُونَ ۖ وَمَا ظَنَّمْتَهُمْ وَلٰكِن كَانُوا هُمُ الظَّالِمِينَ ۖ  
 ٧٥ وَبَادُوا بِمَلِكٍ يُقْضَىٰ عَلَيْهِمْ آيَاتُكَ ۖ قَالَ إِنَّكُمْ مُّكْرَهُونَ ۖ لَقَدْ جِئْتَكُمْ بِالْحَقِّ وَلٰكِن أَكْثَرُكُمْ لِلْحَقِّ كَرِهُونَ ۖ أَمْ أَبْرَمُوا أَمْرًا فَإِنَّا مُبْرَمُونَ ۖ أَمْ يَحْسَبُونَ أَنَا لَا نَسْمَعُ سِرَّهُمْ وَنَجْوَاهُمْ ۖ بَلَىٰ ۖ وَرُسُلْنَا لَدَيْهِمْ يَكْتُمُونَ ۖ قُلْ إِن كَانَ لِلرَّحْمٰنِ وَلَدٌ فَإِنَّا أَوَّلُ الْعٰبِدِينَ ۖ سُبْحٰنَ رَبِّ السَّمٰوٰتِ وَالْاَرْضِ رَبِّ الْعَرْشِ عَمَّا يَصِفُونَ ۖ فَذَرَهُمْ يَمْشُوا وَيَلْعَبُوا حَتَّىٰ يُلَاقُوا يَوْمَهُمُ الَّذِي يُوعَدُونَ ۖ وَهُوَ الَّذِي فِي السَّمٰءِ إِلَهُ ۖ وَفِي الْاَرْضِ إِلَهُ ۖ وَهُوَ الْحَكِيمُ الْعَلِيمُ ۖ وَتَبٰرَكَ الَّذِي لَهُ مُلْكُ السَّمٰوٰتِ وَالْاَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا وَعِنْدَهُ عِلْمُ السَّاعَةِ ۖ وَإِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ۖ وَلَا يَمْلِكُ الَّذِينَ يَدْعُونَ مِن دُونِهِ الشَّفَعَةَ اِلَّا مَن شَهِدَ بِالْحَقِّ وَهُمْ يَعْلَمُونَ ۖ وَلَئِن سَأَلْتَهُم مَّن خَلَقَهُمْ لَيَقُولُنَّ اَللّٰهُ فَآَنِي يُفَوِّكُونَ ۖ وَقِيلَ لَهُ يَرْبِّ اِنْتَ هَؤُلَاءِ قَوْمٌ لَا يُؤْمِنُونَ ۖ فَاصْفَحْ عَنْهُمْ وَقُلْ سَلِّمْ وَسَلِّمْ فَيَسْأَلُونَكَ عَنَّا فَاصْفَحْ عَنْهُمْ وَقُلْ سَلِّمْ وَسَلِّمْ فَيَسْأَلُونَكَ عَنَّا فَاصْفَحْ عَنْهُمْ وَقُلْ سَلِّمْ وَسَلِّمْ فَيَسْأَلُونَكَ عَنَّا فَاصْفَحْ عَنْهُمْ وَقُلْ سَلِّمْ وَسَلِّمْ

敬虔な者たちの報いに言及した後、アッラーはその逆の者たちである罪深い者の報いについて述べる。

⑦④ 不信仰と罪悪によって罪深い者たちは審判の日、地獄の罰の中にいる。かれらはそこに永遠に留まる。

⑦⑤ かれらの罰が軽減されることはない。かれらはそこで、アッラーの慈悲に絶望している。

⑦⑥ かれらを地獄に入れることによって、**われら**がかれらに不正を働いたのではない。だがかれらが不信仰によって、自分自身に不正を犯していたのだ。

⑦⑦ かれらは地獄の門番マーリク(訳注:天使の名)に、こう呼びかける。「マーリクよ、主にわたしたちを殺させよ。わたしたちを罰から楽にさせよ。」するとマーリクは答えて言う。「あなた方は死ぬこともなく、永遠に罰の中に留まる。罰が途切れることはない。」

⑦⑧ **われら**は現世であなた方に、疑念のない真理をもたらした。しかしあなた方の多くは、真理を毛嫌にする。

⑦⑨ もしかれらが預言者に対して悪巧みをしたとしても、**われら**はかれらの企みの上を行く策略に余念がない。

⑧① かれらは、**われら**がかれらの心の中に潜む秘密も、かれらの間でひそひそと密談する秘密も、知らないと思っているのか?いや、**われら**はそれら全てを知っており、天使たちはかれらの行いを全て記録しているのだ。

⑧② 使徒よ、アッラーに女子を結び付けている者たち(アッラーはそのようなことから無縁であるが)に言え。「アッラーには子供などない。**かれ**はそのようなことから無縁で崇高である。わたしは、アッラーに対する崇拜者と讃美者の先駆けなのだ。」

⑧③ 天地の主、玉座の主は、**かれ**には共同者、配偶者、子供がいるなどと、かれら多神教徒たちが言うことから無縁である。

⑧④ 使徒よ、かれらが自分たちに警告されている審判の日を目にするまで、かれらが自分たちの迷妄において無駄口をたたき、戯れるままにしておけ。

⑧⑤ **かれ**は天において真に崇拜されるべきお方で、地においても真に崇拜されるべきお方。**かれ**はその創造、定め、采配において英知にあふれ、僕たちの状態を余すことなく熟知されるお方。

⑧⑥ アッラーは善と祝福にあふれ、**かれ**だけに天地とその間の王権は属する。また、審判の日の知識は**かれ**だけに属するのであり、**かれ**以外にそれを知る者はいない。そして来世において、清算と報いのためにあなた方が戻られるのは、**かれ**のもとなのだ。

⑧⑦ 多神教徒たちがアッラーをよそに崇拜しているものたちは、アッラーのもので執り成しを有しない。ただしイーサーやウザイルや天使たちのように、アッラー以外に崇拜すべきものはなしと証言し、その内容を知る者は別である。

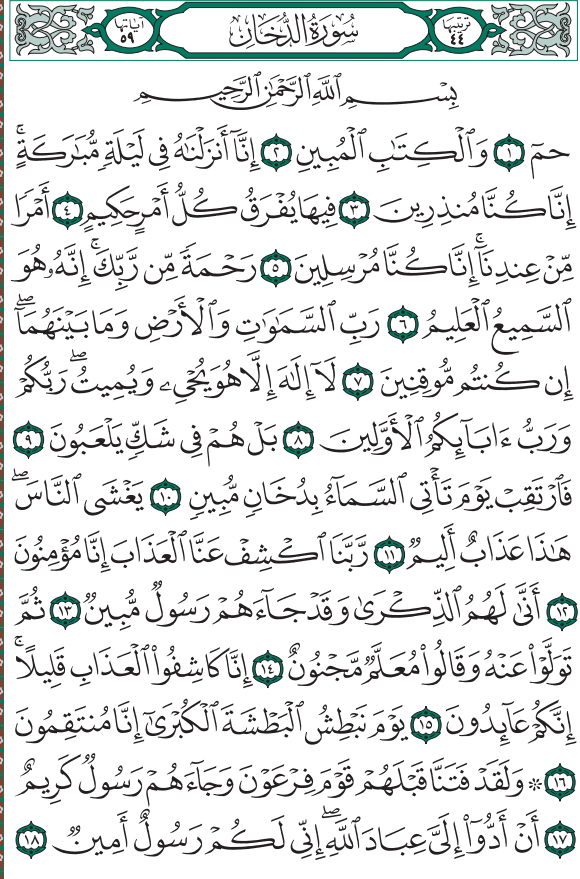
⑧⑧ あなたがかれらに、かれらを創造したのは誰かと尋ねれば、かれらは言うだろう。「わたしたちを創造したのはアッラーである。」そのように認めていながら、どうしてかれらは**かれ**の崇拜から逸脱するのか?

⑧⑨ **かれ**は、民から虐げられた**かれ**の使徒が訴えて、こう言うのを知っている。「主よ、かれらは、あなたがわたしに伝えるようにと遣わしたものを信じない民なのです。」

⑧⑩ かれらのことは放っておき、かれらからの害悪を防ぐ言葉を用いよ(これはマッカでのことだった)。かれらは、かれらに襲いかかる罰を知ることにならう。

### 本諸節の功德:

- 真理を嫌うことは非常に危険である。
- 不信仰者たちの悪巧みは、やがて自分たちに返って来る。
- 主に対する知識が増えれば増えるほど、主に対する信頼と、その教えへの服従は増す。
- 審判の日がいつやって来るかの知識は、アッラーだけに属する。



本章の趣旨:

現世と来世の罰の恐怖を煽ることによる、嘘よばわりする者たちを待ち受ける罰の警告。

説明:

- ①「ハー・ミーム」については、雌牛章冒頭に同様のアーヤの説明あり。
- ②アッラーは、真理への導きの道を明らかにするクルアーンにかけて、誓う。
- ③われらはクルアーンを、みいつの夜に下した。その夜は祝福にあふれている。われらはこのクルアーンによって、警告する者である。
- ④この夜、その年にアッラーが実現させる糧や寿命など、精到に定められた全ての物事が詳細にされる。
- ⑤われらは、精到に定められた全ての物事を、われらのもとから詳細にする。われらは使徒たちを遣わす者である。
- ⑥使徒よ、われらはあなたの主の慈悲により、使徒たちを遣わす。かれは僕たちの言葉を聞き、その行いや意図を知るお方。全てはかれにお見通しなのだ。
- ⑦天地とその間のものの主。もしあなた方がそのことを確信しているのなら、わが使徒を信じよ。
- ⑧かれ以外に真に崇拜すべきものはない。かれは生と死を与えるお方。かれ以外にそれが出来る者はない。かれはあなた方と、あなた方の先祖の主である。
- ⑨かれら多神教徒たちは、そのことを確信せず、疑念を持っている。かれらは自分たちの迷妄と戯れているのだ。
- ⑩使徒よ、あなたの民の罰を見よ。その日、天から煙霧が起り、かれらはそれを激しい痛みと共にまざまざと見ることになる。
- ⑪それはあなたの民を覆い、かれらにはこう言われる。「あなた方に降りかかったこの罰は、痛ましい罰である。」
- ⑫かれらは主に懇願して、言う。「主よ、わたしたちに送った罰を取り除いて下さい。そうしてくれば、わたしたちはあなたと、あなたの使徒を信じます。」
- ⑬今頃思い起こし、主に悔悟しても何になろうか?かれらにはメッセージを明らかにする使徒が到来し、かれらはその正直さと信頼性を知ったというのに?
- ⑭その後、かれらは、かれを信じることに背を向けて、こう言ったのだ。「かれは誰かから教えてもらったのであり、使徒などではない。」また、かれについてこう言った。「かれは狂人だ。」
- ⑮われらがあなた方から罰を少し取り除いてやれば、あなた方は不信仰と嘘よばわりに戻る。
- ⑯使徒よ、われらがあなたの民の不信仰者たちを厳しく掌握する日である、バドルの戦いの日待つがよい。われらは、かれらのアッラーに対する不信仰とその使徒に対する嘘よばわりのために、かれらに報復する者である。
- ⑰われらはかれら以前、フィアウンの民を試練にかけた。かれらのもとにアッラーからの高貴な使徒がやって来て、かれらをアッラーの唯一性と崇拜へと招いた。かれはムーサーである。
- ⑱ムーサーはフィアウンとその民に言った。「わたしにイスラエルの民を任せて下さい。かれらはアッラーの僕であり、あなたたちにはかれらを奴隷とする権利などありません。わたしはアッラーの使徒であり、伝達するよう命じられたものを、過不足なく伝える使命を授かっています。」

本諸節の功德:

- クルアーンが祝福にあふれたみいつの夜に下されたのは、その偉大な位を示す証拠である。
- 使徒たちを遣わし、クルアーンを啓示したのは、僕に対するアッラーの慈悲の表れである。
- 驕り高ぶる者たちから抑圧された者たちを解放するという、預言者たちのメッセージ。

وَأَنْ لَا تَعْلُوا عَلَى اللَّهِ إِنِّي آتِيكُمْ بِسُلْطَانٍ مُبِينٍ ﴿١٦﴾ وَإِنِّي عَدْتُ  
 بِرَبِّي وَرَبِّكُمْ أَنْ تَرْجُمُونِ ﴿١٧﴾ وَإِنْ لَمْ تُؤْمِنُوا لِي فَأَعْتَزِلُونِ ﴿١٨﴾  
 فَذَعَارِيهِ وَأَنَّ هَؤُلَاءِ قَوْمٌ مُجْرِمُونَ ﴿١٩﴾ فَأَسْرِ بِعِبَادِي لَيْلًا إِنَّكُمْ  
 مُتَّبَعُونَ ﴿٢٠﴾ وَأَتْرِكُ الْبَحْرَ رَهْوًا إِنَّهُمْ جُنْدٌ مُعْرَفُونَ ﴿٢١﴾ كَمْ  
 تَرَكُوا مِنْ جَنَّةٍ وَعَيْونِ ﴿٢٢﴾ وَزُرُوعٍ وَمَقَامٍ كَرِيمٍ ﴿٢٣﴾ وَنَعْمَةٍ  
 كَانُوا فِيهَا فَوَكَيْهينِ ﴿٢٤﴾ كَذَلِكَ وَأَوْثَقْنَاهَا قَوْمَاءَ الْآخِرِينَ ﴿٢٥﴾ فَمَا  
 بَكَتْ عَلَيْهِمُ السَّمَاءُ وَالْأَرْضُ وَمَا كَانُوا مُنظَرِينَ ﴿٢٦﴾ وَلَقَدْ  
 جَعَلْنَا بَنِي إِسْرَائِيلَ يَدَآئِلَ مِنَ الْعَذَابِ الْمُهِينِ ﴿٢٧﴾ مِنْ فِرْعَوْنَ إِنَّهُ  
 كَانَ عَالِيًا مِنَ الْمُسْرِفِينَ ﴿٢٨﴾ وَلَقَدْ أَخْتَرْنَا لَهُمْ عَلَىٰ عَمَلِهِمْ عَلَى  
 الْعَالَمِينَ ﴿٢٩﴾ وَآتَيْنَاهُمْ مِنَ الْآيَاتِ مَا فِيهِ بَلَاءٌ مُبِينٌ ﴿٣٠﴾  
 إِنَّ هَؤُلَاءِ لَيَقُولُونَ ﴿٣١﴾ إِنْ هِيَ إِلَّا مَوْتَتُنَا الْأُولَىٰ وَمَا نَحْنُ  
 بِمُنذَرِينَ ﴿٣٢﴾ فَأَنذَرْنَا يَا بَنِي آدَمَ أَنْ كُنتُمْ صَادِقِينَ ﴿٣٣﴾ أَهْمَ  
 خَيْرًا أَمْ قَوْمٌ تُبِيعَ وَالَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ أَهْلَكْنَاهُمْ إِنَّهُمْ كَانُوا  
 مُجْرِمِينَ ﴿٣٤﴾ وَمَا خَلَقْنَا السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا لِلْعَيْنِ  
 ﴿٣٥﴾ مَا خَلَقْنَاهُمَا إِلَّا بِالْحَقِّ وَلَكِنْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٣٦﴾

① アッラーの崇拜を高慢にも放棄したり、かれの僕たちを抑圧したりしてはなりません。わたしはあなた方に、明証を持って来ましょう。

② わたしは、あなた方がわたしを石打ちにして殺害することから、わが主とあなた方のご加護を求めます。

③ もしわたしがあなた方に伝えるものを信じないのなら、わたしから離れ、わたしに害を及ぼさないで下さい。」

④ そしてムーサーは主に祈った。かれらフィルアウンとその重臣たちは、罪深い者たちです。かれらは早く罰が下されるに相応しいのです。

⑤ それでアッラーはムーサーに、ある晩旅立つよう命令した。フィルアウンとその軍勢が、かれらの後を追って来ること知らせた。

⑥ また、かれとイスラエールの子孫が海を渡ったら、それを滞留したままにしておくよう命じた。フィルアウンとその軍勢は海で溺死することにより、滅びるのだ。

⑦ フィルアウンとその民はその背後に、どれだけの果樹園と流れ出る泉を残してきたことか！

⑧ かれらはその背後に、どれだけの農産物と美しい居間を残してきたことか！

⑨ かれらはその背後に、どれだけ豪華な生活を残してきたことか！

⑩ われらがあなた方に描写したこのことが、かれらに起きたのだ。またわれらは別の民、つまりイスラエールの子孫に、かれらの果樹園、泉、農産物、住まいを継がせた。

⑪ フィルアウンとその民が溺れた時、天も地も泣くことがなかった。かれらは悔悟のために猶予されることもなかった。

⑫ われらはイスラエールの子孫を、屈辱的な罰から救った。フィルアウンとその民はかれらの男児は殺し、女兒は生かしておいた。

⑬ われらはかれらを、フィルアウンの罰から救った。かれはアッラーの命令とその宗教を、高慢にも無視する者たちだった。

⑭ われらはわが知識により、イスラエールの子孫を同時代の学者たちから選りすぐった。かれらにはたくさんの預言者たちがいたためだ。

⑮ また、われらはかれらに、ムーサーのことをわれらがそれによって支持する明証を与えた。その中には、マンヌとサルワー(訳注: 雌牛章57参照)その他、かれらに対する明らかな恩恵があった。

⑯ かれら嘘呼ばわりの多神教徒たちは、復活を否定してこう言う。

⑰ 「わたしたちには一度きりの死があるだけで、その後の生などはない。わたしたちはその死の後、蘇らされることもない。

⑱ ムハンマドよ、あなたとあなたの追従者たちは、亡くなってしまったわたしたちの祖先を生き返して、連れて来てみよ。もしアッラーが清算と報いのために死者を生き返すと主張が、正しいのであれば。

⑲ 使徒よ、かれら嘘呼ばわりの多神教徒たちが力と堅牢さにおいて優れているのか、それともトッパウの民や、アードやサムードといったそれ以前の者たちなのか？われらは罪深かったかれらを、全て滅ぼしたのだ。

⑳ われらは、天地とその間のものをいたずらに創ったわけではない。

㉑ われらが天地を創ったのは、偉大な英知のためである。しかし多くの多神教徒たちには、そのことが分からない。

### 本諸節の功德:

- 敵の策略から身を守るため、信者は主へと避難しなければならない。
- 不信仰者たちが呼びかけに応じなかったり、または戦いを仕掛けてきたりした時には、かれらに災難を祈ることが許される。
- 不信仰者はアッラーにとって取るに足らない存在であるため、死んでも世界が悲しまない。
- 天地の創造は偉大な英知によるものだが、無神論者たちにはそれが分からない。



٤٩ ۞ إِنَّ يَوْمَ الْفَصْلِ مِيقَاتُهُمْ أَجْمَعِينَ ۝ ٥٠ ۞ يَوْمَ لَا يُغْنِي مَوْلَىٰ  
 ٥١ ۞ عَنْ مَوْلَىٰ شَيْئًا وَلَا هُمْ يُنصَرُونَ ۝ ٥٢ ۞ إِلَّا مَنْ رَحِمَ اللَّهُ  
 ٥٣ ۞ إِنَّهُ هُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ۝ ٥٤ ۞ إِنَّ شَجَرَتَ الرَّقْمِ ۝ ٥٥ ۞ طَعَامُ  
 ٥٦ ۞ الْأَيْثِمِ ۝ ٥٧ ۞ كَالْمُهْلِ يَغْلِي فِي الْبُطُونِ ۝ ٥٨ ۞ كَعَلَى  
 ٥٩ ۞ الْحَمِيمِ ۝ ٦٠ ۞ خَذُوهُ فَأَعْتَلُوهُ إِلَىٰ سَوَاءِ الْجَحِيمِ ۝ ٦١ ۞ ثُمَّ  
 ٦٢ ۞ صُبُّوا فَوْقَ رَأْسِهِ مِنْ عَذَابِ الْحَمِيمِ ۝ ٦٣ ۞ ذُقْ إِنَّكَ  
 ٦٤ ۞ أَنْتَ الْعَزِيزُ الْكَرِيمُ ۝ ٦٥ ۞ إِنَّ هَذَا مَا كُنْتُمْ بِهِ تَمْتَرُونَ  
 ٦٦ ۞ إِنَّ الْمُتَّقِينَ فِي مَقَامٍ أَمِينٍ ۝ ٦٧ ۞ فِي جَنَّاتٍ وَعُيُونٍ  
 ٦٨ ۞ يَلْبَسُونَ مِنْ سُندُسٍ وَإِسْتَبْرَقٍ مُتَقَابِلِينَ ۝ ٦٩ ۞  
 ٧٠ ۞ كَذَلِكَ وَزَوَّجْنَاهُمْ بِحُورٍ عِينٍ ۝ ٧١ ۞ يَدْعُونَ فِيهَا بِكُلِّ  
 ٧٢ ۞ فَاكِهَةٍ أَمْنِيَةٍ ۝ ٧٣ ۞ لَا يَذُوقُونَ فِيهَا الْمَوْتَ إِلَّا  
 ٧٤ ۞ الْمَوْتَ الْأُولَىٰ ۝ ٧٥ ۞ وَوَقَّعَهُمْ عَذَابَ الْجَحِيمِ ۝ ٧٦ ۞ فَضَلَّ مِنْ  
 ٧٧ ۞ رَبِّكَ ذَلِكَ هُوَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ۝ ٧٨ ۞ فَإِنَّمَا يَسْتَرْزِقُهُ يَلِسَانُكَ  
 ٧٩ ۞ لَعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ۝ ٨٠ ۞ فَأَرْتَقِبْ إِنَّهُمْ مُرْتَقِبُونَ ۝ ٨١ ۞

سُورَةُ الْحَجَّانِ  
 ٢٧ آيَاتُهَا  
 ٤٠ نِسْبَاتُهَا

④⑩ アッラーが僕たちの間を裁決する審判の日は、全ての被造物に対する約束の時である。アッラーはそこで全ての被造物を召集する。

④⑪ その日、近親者同士、友人同士が互いに役立つことはなく、アッラーの罰から助けることも出来ない。なぜならその日、王権はアッラーだけに属し、誰一人としてそれを主張する者はないからだ。

④⑫ ただし、アッラーが慈悲をかけた人々だけは別で、行った善行が役立つことになる。アッラーは誰にも制圧されない偉大なお方であり、悔悟する僕たちに慈悲深いお方。

審判の日が描写された後、アッラーはその日、報いに応じて人々が分けられることに言及し、こう言う。

④⑬ アッラーが生えさせるザクームの木は、地獄の奥底にある。

④⑭ 大きな罪を犯した者、つまり不信仰者の食べ物であり、その悪しき果実から食べることになる。

④⑮ その果実は漆黒の油のようであり、かれらの腹の中で高熱で沸騰する。

④⑯ 最高潮の熱さの熱湯が、沸騰するようである。

④⑰ そして地獄の番人たちに、こう言われる。「かれを捕らえ、激しくきざり、地獄の真ん中へ連れて行け。

④⑱ そしてこの罰を受ける者の頭上から、熱湯をかけよ。かれは罰から逃れられない。」

④⑲ かれには辛らつにも、こう言われる。「この痛ましい罰を味わえ。あなたは民の間で面目を汚されることがなかった、偉大な人物なのだ。

⑤⑩ この罰こそは、あなた方がその実現を疑っていたもの。あなた方はそれを目にし、その疑念も消え失せたのだ。」

⑤⑪ 命令と禁止事項への服従によって主を畏れる者たちは、あらゆる悪から安全な住まいにいる。

⑤⑫ 楽園と流れる泉の中に。

⑤⑬ かれらは天国で、繊細な絹地や重厚な絹地をまとい、互いに背を向けることなく向かい合っている。

⑤⑭ われらは以上のものを授けてかれらへの荣誉としただけでなく、楽園でかれらに美しい女性たちを結婚させる。彼女たちの目は大きく、目の白い部分は真っ白で、黒い部分は漆黒である。

⑤⑮ かれらはそこで召使を呼び、自分が望むあらゆる果実を持って来させる。それらの果実は無くなることも、悪くなることもない。

⑤⑯ かれらはそこに永遠に留まる。現世での最初の死の後、そこでは死を味わうこともない。主はかれらを地獄の罰から守ってくれたのだ。

⑤⑰ これは主からかれらへの歓待であり、誉れである。地獄から守られ、天国に入ることが出来たということは、いかなる勝利も匹敵することのない偉大な勝利なのだ。

⑤⑱ 使徒よ、われらはこのクルアーンを、あなたの言葉であるアラビア語で啓示することで、易しいものとした。かれらが教訓を得るようにと。

⑤⑲ だからあなたの勝利と、かれらの滅亡を待つがよい。かれらがあなたの滅亡を待っているように。

**本諸節の功德:**

- 不信仰者には、身体的および精神的な罰がある。
- 偉大な勝利とは地獄から救われ、天国に入ることである。
- アッラーは僕たちのために、クルアーンの語と意味を易しいものとした。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

حَمْدٌ تَنْزِيلُ الْكِتَابِ مِنَ اللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ ① إِنَّ فِي السَّمَوَاتِ  
وَالْأَرْضِ لَآيَاتٍ لِّلْمُؤْمِنِينَ ② وَفِي خَلْقِكُمْ وَمَا يَبُذُّ مِنْ دَابَّةٍ آيَاتٌ  
لِّقَوْمٍ يُوقِنُونَ ③ وَأَخْتَلَفُ اللَّيْلُ وَالنَّهَارُ وَمَا نَزَلَ مِنَ السَّمَاءِ  
مِنْ رِّزْقٍ فَأَحْيَاهُ الْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا وَتَصْرِيفِ الرِّيْحِ آيَاتٌ لِّقَوْمٍ  
يَعْقِلُونَ ④ تَلَاكَ آيَاتُ اللَّهِ نَتْلُوهَا عَلَيْكَ بِالْحَقِّ فَبِأَيِّ حَدِيثٍ بَعْدَ  
اللَّهِ وَآيَاتِهِ يَتُومِنُونَ ⑤ وَيَلُّ لِكُلِّ أَفَّاكٍ أَثِيمٍ ⑥ يَسْمَعُ آيَاتِ  
اللَّهِ تُنَادِي عَلَيْهِ ثُمَّ يُصِرُّ مُسْتَكْبِرًا كَأَن لَّمْ يَسْمَعْهَا فَبَشِّرْهُ بِعَذَابٍ أَلِيمٍ  
⑦ وَإِذْ أَعْلَمُ مِنْ آيَاتِنَا شَيْئًا اتَّخَذَ هَاهُنَا أَوْلِيَاءَ لَهُمْ عَذَابٌ  
مُّهِينٌ ⑧ مِّنْ وَرَائِهِمْ جَهَنَّمُ وَلَا يُغْنِي عَنْهُمْ مَا كَسَبُوا شَيْئًا  
وَلَا مَا اتَّخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ أَوْلِيَاءَ وَلَهُمْ عَذَابٌ عَظِيمٌ ⑨ هَذَا  
هُدًى وَالَّذِينَ كَفَرُوا بِآيَاتِ رَبِّهِمْ لَهُمْ عَذَابٌ مِّن رِّجْزٍ أَلِيمٍ ⑩  
\*اللَّهُ الَّذِي سَخَّرَ لَكُمُ الْبَحْرَ لِتَجْرِيَ الْفُلُكُ فِيهِ بِأَمْرِهِ وَتَسْتَبْعُوا  
مِنْ فَضْلِهِ وَلَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ⑪ وَسَخَّرَ لَكُمْ مَاءَ فِي السَّمَوَاتِ وَمَاءَ فِي  
الْأَرْضِ جَمِيعًا لِّنُنزِلَ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ يَتَفَكَّرُونَ ⑫

## 本章の趣旨:

法的現実的な諸節からの創造の様子の説明と、高慢にも復活を否定する者たちの主張及び彼らを恐れさせること。

## 説明:

①「ハー・ミーム」については、雌牛章冒頭に同様のアーヤの説明あり。

②誰にも制圧されない偉大なお方であり、創造と定めと采配において英知あふれるお方アッラーからの、クルアーンの啓示。

③天地はアッラーの力と唯一性を示す、信仰者にとっての証拠である。かれらこそはそれらの印を熟慮する者たちなのだ。

④人々よ、あなた方が一滴の精液、凝血、肉塊から創造されたこと、またアッラーによって拡散された地上を歩く生物は、アッラーこそが創造主であると確信する民にとって、かれの唯一性を示す証拠である。

⑤昼夜の変転。天からアッラーが雨を降らし、枯れた不毛の大地に草木を生えさせて生き返すこと。あなた方の利益のために、風を様々な方向から吹かせること。それらの中には、理性ある民にとっての証拠がある。かれらはそれらを、アッラーの唯一性、復活させる力、何でも可能にする能力の証拠とするのである。

⑥使徒よ、われらはこれらの印と明証を、真理をもってあなたに語って聞かせる。アッラーがその僕に啓示する話や証拠を信じないというなら、一体かれらはいかなる話を信じ、いかなる証拠を信用するというのか？

⑦嘘よばわりし、罪深い全ての者には、アッラーからの罰と滅亡がある。

⑧不信仰者は、クルアーンからアッラーのアーヤが読まれるのを聞けば、傲岸にも真理に従うことにはねのけ、不信仰と罪深い状態のまま続ける。かれはあたかも、読み聞かせられるそれらのアーヤを聞いてはいないかのようだ。使徒よ、来世で降りかかる災難について、その者に伝えるがよい。それはかれを待ち受ける、痛ましい罰なのだ。

⑨クルアーンを聞けば、かれはそれを笑いの種にして嘲笑する。クルアーンを嘲笑する者たちには審判の日、屈辱的な罰があるので。

⑩来世において、かれらの行く先には地獄の業火が待ち受けている。かれらが稼いだ財産が、かれらをアッラーから守ってくれることはない。また、かれをよそに崇拜していた偶像が、かれらの役に立つこともない。かれらには審判の日、この上ない罰があるのだ。

⑪われらが使徒ムハンマドに下したこの啓典は、真理の道へと導く。使徒に下された主のアーヤを否定する者たちには、痛ましく悪しき罰がある。

⑫人々よ、アッラーこそは、あなた方に海を仕えさせたお方。そのご命令によって、船はそこを進む。また、あなた方はそのお陰で、そこから合法で多様な食べ物を得る。これはあなた方が、アッラーの恩恵に感謝するようにさせるためである。

⑬人々よ、アッラーこそは、あなた方に空の太陽、月、諸星を動かし、大地の川や樹木や山々などを動かすお方である。これらはすべてかれからの恩寵と善行による恵みである。それらはあなた方へのアッラーの能力と単一性の証拠であり、また人々がアッラーの印を考慮し認めるためである。

## 本諸節の功德:

- 嘘、罪への固執、高慢さ、アッラーの印への嘲笑は迷妄の民の特徴であり、アッラーはかれらに警告している。
- 僕たちに対するアッラーの恩恵はたくさんある。この世にあるものがかれらに仕えさせられたことも、その一つである。
- 僕たちに対する恩恵は、それを授けてくれた、崇拜されるべきお方への感謝の念を要求する。

قُلْ لِلَّذِينَ ءَامَنُوا يَعْزُرُوا الَّذِينَ لَا يَرْجُونَ أَيَّامَ اللَّهِ لِيَجْزِيَ  
 قَوْمًا بِمَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿١٤﴾ مَنْ عَمِلَ صَالِحًا فَلِنَفْسِهِ ۗ  
 وَمَنْ أَسَاءَ فَعَلَيْهَا ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُمْ تُرْجَعُونَ ﴿١٥﴾ وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا  
 بَنِي إِسْرَائِيلَ الْكِتَابَ وَالْحُكْمَ وَالنُّبُوَّةَ وَرَزَقْنَاهُمْ مِنَ الطَّيِّبَاتِ  
 وَفَضَّلْنَاهُمْ عَلَىٰ الْعَالَمِينَ ﴿١٦﴾ وَءَاتَيْنَاهُمْ بَيِّنَاتٍ مِّنَ الْأَمْرِ ۗ  
 فَمَا اخْتَلَفُوا إِلَّا مِنْ بَعْدِ مَا جَاءَهُمُ الْعِلْمُ بَعِيًا بَيْنَهُمْ إِنَّ رَبَّكَ  
 يَقْضِي بَيْنَهُمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ فِيمَا كَانُوا فِيهِ يَخْتَلِفُونَ  
 ﴿١٧﴾ ثُمَّ جَعَلْنَاكَ عَلَىٰ شَرِيعَةٍ مِّنَ الْأَمْرِ فَاتَّبِعْهَا وَلَا تَتَّبِعْ  
 أَهْوَاءَ الَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٨﴾ إِنَّهُمْ لَنُيْعُوا عَنكَ مِنَ اللَّهِ  
 شَيْئًا وَإِنَّ الظَّالِمِينَ بَعْضُهُمْ أَوْلِيَاءُ بَعْضٍ ۗ وَاللَّهُ وَلِيُّ الْمُتَّقِينَ  
 ﴿١٩﴾ هَذَا بَصِيرَتِ لِلنَّاسِ وَهُدًى وَرَحْمَةً لِّقَوْمٍ يُوقِنُونَ ﴿٢٠﴾  
 أَمْ حَسِبَ الَّذِينَ أَجْرَتْحُوا السَّيِّئَاتِ أَنْ نَجْعَلَهُمْ كَالَّذِينَ  
 ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ سَوَاءً مَّحِبًّا لَهُمْ وَمِمَّا نُهُهُمْ سَاءً  
 مَا يَتَّخِذُونَ ﴿٢١﴾ وَخَلَقَ اللَّهُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ  
 وَلِيُجْزِيَ كُلَّ نَفْسٍ بِمَا كَسَبَتْ وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ ﴿٢٢﴾

14 使徒よ、アッラーとその使徒を信仰する者たちに言え。「アッラーの恩恵にも罰にも無頓着な不信仰者たちが、あなた方に悪を行っても、大目に見てやれ。アッラーは忍耐する信仰者たちにも、侵害する不信仰者たちにも、現世で稼いだその行いに応じて、報いるのだから。」

15 善行を行う者の善行の結果は、本人のためになるのであり、アッラーはその行いを必要とはしていない。悪事を行う者の悪事の結果は、本人の罰となるのであり、その悪事がアッラーを害することはない。来世において結局あなた方はわれらのもとへと戻されるのであり、各自はそれに相応しい報いを受けることになるのだ。

16 われらはイスラエルの子孫に律法を授け、人々の間をそれによって裁決するようにし、預言者の多くをイブラヒームの子孫であるかれらの内の者とした。また、かれらに多種のよい糧を与え、同時代の者たちの中から選り抜いた。

17 また、われらはかれらに、虚妄から真理を明らかにする証拠を与えた。だが、かれらは預言者ムハンマドが違わされたことによる立証の後、意見を異ならせた。かれらが意見を異ならせたのは、権力や地位への執着心による互いへの侵犯のためだった。使徒よ、主は審判の日、かれらが現世で意見を異ならせていたことについて、かれらの間を裁き、誰が正しく、誰が間違っていたかを明らかにするだろう。

18 それからわれらは、われらがあなた以前の使徒たちに命じたのと同じ命令による道と手法の上に、あなたを置いた。それは信仰と善行へと招く道である。だからそのやり方に従い、真理を知らない者たちの欲望に従うのではない。かれらの欲望は真理から逸脱させるのだから。

19 あなたがその欲望に従ったとしても、真理を知らない者たちがあなたをアッラーの罰から阻んでくれることはない。あらゆる宗教や派閥の不正者たちは、信仰者に敵対して互いに援助し合う者である。アッラーは、その命令と禁止事項への服従によってかれを畏れる者たちに対する、援助者である。

20 このクルアーンは、われらの使徒に下された明証であり、人々はそれによって真理と虚妄を識別する。またそれは真理への導き、確信する者たちへの慈悲である。なぜならかれらこそは、それによって真っ直ぐな道へと導かれ、主のお喜びを得て天国に入り、地獄から遠ざけられるからだ。

21 自らの身体によって不信仰と罪を稼いだ者たちは、アッラーを信じて善行を行った者たちと同様の報いによってわれらに報いられるとも思っているのか？現世と来世において、かれらが同様の状態だと思うのか？かれらの判断は何と醜いことか。

22 アッラーは天地を偉大な英知のために創ったのであり、無意味に創ったのではない。各人は良いことであれ悪いことであれ、行ったことの報いを受けることになる。アッラーはかれらの善行を減らしたり、悪行を増やしたりして、不正を働くことはない。

### 本諸節の功德:

- 地上でその悪が顕在したり、アッラーの掟が破られたりしない限り、不正者を赦し、大目に見ることは、アッラーが命じている高德である。
- イスラームの教えに従い、人間の欲望への服従から遠ざかることの義務。
- 信仰者と不信仰者の性質が異なるように、両者の報いもまた異なる。
- アッラーは天地をその卓越した知恵で創造されたが、無宗教で物質主義者にはその知恵がない。

أَفَرَأَيْتَ مَنِ اتَّخَذَ إِلَهَهُ هَوَاهُ وَأَصْلَةَ اللَّهِ عَلَى عَرْشِهِ وَخَتَمَ عَلَى سَمْعِهِ  
 وَقَلْبِهِ وَجَعَلَ عَلَى بَصَرِهِ غِشْوَةً فَمَنْ يَهْدِيهِ مِنْ بَعْدِ اللَّهِ أَفَلَا  
 تَذَكَّرُونَ ﴿٣٦﴾ وَقَالُوا مَا هِيَ إِلَّا حَيَاتُنَا الدُّنْيَا نَمُوتُ وَنَحْيَا وَمَا يُهْلِكُنَا  
 إِلَّا الدَّهْرُ وَمَا لَهُمْ بِذَلِكَ مِنْ عِلْمٍ إِنْ هُمْ إِلَّا يَظُنُّونَ ﴿٣٧﴾ وَإِذْ أَنْتَلَى  
 عَلَيْهِمْ آيَاتُنَا بَيِّنَاتٍ مَّا كَانُوا حُجَّتَ لَهُمْ إِلَّا أَنْ قَالُوا اتَّبَوْنَا أَجَابِقَ ابْنِ  
 كَثَمٍ صَادِقِينَ ﴿٣٨﴾ قُلِ اللَّهُ يُحْيِيكُمْ ثُمَّ يُمِيتُكُمْ ثُمَّ يُجْمَعُكُمْ إِلَى  
 يَوْمِ الْقِيَامَةِ لَا رَيْبَ فِيهِ وَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٣٩﴾ وَلِلَّهِ مُلْكُ  
 السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَيَوْمَ تَقُومُ السَّاعَةُ يُومِذِ بِخَسْرِ الْمُبْطِلُونَ ﴿٤٠﴾  
 وَتَرَى كُلَّ أُمَّةٍ جَائِيَةً كُلُّ أُمَّةٍ تُدْعَى إِلَى كِتَابِهَا الْيَوْمَ تُجْزَوْنَ مَا كُنتُمْ  
 تَعْمَلُونَ ﴿٤١﴾ هَذَا كِتَابُنَا يَبْقَى عَلَيْكُمْ بِالْحَقِّ إِنَّا كُنَّا نَسْتَنسِخُ  
 مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٤٢﴾ فَأَمَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ  
 فَيُدْخِلُهُمْ رَبُّهُمْ فِي رَحْمَتِهِ ذَلِكَ هُوَ الْفَوْزُ الْمُبِينُ ﴿٤٣﴾ وَأَمَّا  
 الَّذِينَ كَفَرُوا أَفَلَمْ تَكُنْ آيَاتِنَا عَلَيْكُمْ فَاسْتَكْبَرْتُمْ وَكُنتُمْ قَوْمًا  
 مُجْرِمِينَ ﴿٤٤﴾ وَإِذْ قِيلَ إِنَّ وَعْدَ اللَّهِ حَقٌّ وَالسَّاعَةُ لَا رَيْبَ فِيهَا  
 فَلْتَمَّ مَا نَدْرِي مَا السَّاعَةُ إِنْ نَظُنُّ إِلَّا الظَّنَّ وَمَا تَخَنُّ بِمُستَيْقِنِينَ ﴿٤٥﴾

の徒は損失する。かれらは真理を打ち消し、虚妄を確立させようと励んでいたのだ。

〔28〕使徒よ、あなたはその日、あらゆる民が自分の裁決を待って、ひざまずくのを見る。全ての民は、記録役の天使たちが記した、自分の行いの帳簿へと呼ばれる。人々よ、この日あなた方は、現世で行った善悪の物事について報いを受けることになるのだ。

〔29〕天使たちがあなた方の行いを記録していた、われらのこの帳簿は、あなた方に真理をもって証言する。だから、それを読むがよい。われらは記録役に、あなた方が現世で行うことを書き留めるよう、命じていたのである。

〔30〕信仰して善行を行っていた者たちを、主はその慈悲で天国に入れる。アッラーがかれらに授けたその報いこそは、いかなる勝利も匹敵することがない偉大な勝利である。

〔31〕他方、アッラーを否定した者たちには、皮肉にもこう言われる。「われらのアーヤがあなた方に読み聞かせられていたにも関わらず、あなた方は高慢にもそれを信じなかった。あなた方は罪悪の民であり、不信仰や罪を稼いでいたのだ。

〔32〕また、アッラーが僕たちを復活させて報いるという約束と審判の日は、疑念の余地のない真理である、と言われれば、あなた方はこう言った。わたしたちは審判の日のことなど知らない。それが起こるとは、到底思えない。わたしたちはその到来を確信する者ではないのだ。」

### 本諸節の功德:

- 私欲への服従は破滅を呼び、成功の要因から阻む。
- 審判の日の恐怖。
- 憶測は真理に対して何の役にも立たない。特に信仰の問題に関してはそうである。

〔23〕使徒よ、私欲に逆らうことなく従うことで、それを崇拜対象の地位にまで上げた者を見よ。アッラーは、かれが迷妄に相応しいことを知っていたために、かれを迷わせたのだ。そしてその心を閉じて、役立つことを聞くことが出来ないようにし、その目に覆いをかぶせ、真理を見ることを阻んだ。アッラーによって迷わされた後、かれを真理へと導く者があろうか？あなた方は私欲の服従の害悪と、アッラーの教えに対する服従の利益を、熟慮しないのか？

〔24〕復活を否定する不信仰者たちは、言う。「人生は、現世でのわたしたちのこの人生しかなく、その後の人生などはない。滅んだ世代は戻らず、また新たな世代がやって来る。わたしたちに死をもたらすのは、昼夜の変転でしかない。」復活に対するかれらの否定は、知識に基づいたものではない。かれらは憶測しているだけ。憶測は真理に対して何の役にも立たない。

〔25〕復活を否定する不信仰者たちにわれらの明白なアーヤが読誦されれば、かれらは使徒と教友たちに対し、このように言い返す位しかできない。「死んでしまったわたしたちのご先祖を、生き返してみよ。もしわたしたちが死後に蘇られるという主張において、あなた方が本当のことを言っているならば。」

〔26〕使徒よ、かれらに言え。「アッラーはあなた方を創造して生命を授け、それから死を与える。そしてあなた方の死後、清算と報いのため、あなた方を審判の日へと召集するのだ。その日は疑いの余地なく到来する。だが多くの人々には分からないのだ。」だからかれらは、その日のために善行で準備することもない。

〔27〕アッラーだけが天の主であり、大地の主。だからそこで、かれ以外の者が真に崇拜されることはない。清算と報いのためにアッラーが死者を蘇らせる審判の日が起きる時、アッラー以外のものを崇拜していた迷妄